京都橘大学 歴史遺産調査報告 2017

山科大塚・小山石切丁場、二条城東側堀川石垣

2018年３月
京都橘大学　文学部

はじめに

本学の歴史遺産学科は、その前身となる文化財学科が1996（平成８）年に設置申請、同年12月に認可、1997（平成９）年４月より開設された。その後、2012年４月１日より文化財学科から歴史遺産学科へ学科名を変更した。

文化財学科を開設した当時の門脇禎二学長は「①文化財・伝統文化を尊重する心と専門的知識・技能の基礎を身につけて、研究者・職業人をめざしたりあるいはすぐ社会生活に入る学生の育成と、②体系的な「文化財学」の創出をめざす研究の進展、を目的においた」とした。

そのうちの専門的知識・技能の基礎を身につける学びの一環として、本学では2000（平成12）年３月から開始した京都市伏見区にある法琳寺跡の測量調査以降、近畿地方東北部のフィールドを中心として、発掘・測量調査を継続して行ってきた。調査には多くの学生が参加し、現場での実践的な調査の方法や技能を学び取っている。

本年度は主に、山科大塚・小山石切丁場などの諸調査を実施した。ここではそれらの成果を中心として報告するものである。報告書を作ることもまた、学生が調査から報告書発行までの一貫した流れを知るための大切な作業であり、これらの活動全体を通し、文化遺産のより一層の周知に役立てられれば幸いである。

さて、2012（平成24）年に学科名を歴史遺産へと銘打ったのは、近年世界遺産や文化的景観など、多様化する文化財とその周辺学の拡がりを省みた結果である。「人類の所産のうち、考古資料、彫刻、絵画、工芸品、歴史資料などの動産遺産と、建造物、近代化遺産、都市・文化的景観、史跡、埋蔵文化財といった土地に定着した不動産遺産、これらの２つの領域の文化遺産情報を対象として歴史遺産という認識の学びに高める」というものである。

この歴史遺産調査報告書は、そのうちの考古遺産、建築遺産といった文化遺産を主とする。我々がここで文化遺産に関わる作業と勉学に向かえるのは、ひとえに調査にあたらせていただく際の現地の方々や、多くの関係者の方々のご理解・ご協力の賜である。この場を借りて心から感謝申し上げます。今後とも文化遺産調査についての変わらぬご理解、ご協力、ご指導を賜りたく、お願い申し上げる次第である。

2018年３月31日

京都橘大学文学部

例　言

1．本書は、京都橘大学が2017年度に実施した京都市山科大塚・小山石切丁場や二条城東側堀川石垣などの歴史遺産学科歴史遺産コースを主とした文化遺産の調査報告書である。
2．調査した遺跡と遺構には、国土座標世界測地系によってその位置を示した。
3．本文の執筆には、第１章を一瀬和夫・山本美喜、第２章を鈴木知怜・嵯峨根絵美、第３章を広瀬侑紀、第４章を広瀬侑紀・鈴木知怜があたった。
4．本書の編集は、一瀬和夫・畝麻由美・山本美喜・鈴木知怜が担当し、各執筆者や参加学生がこれを助けた。
5．調査にあたっては、大塚共有山護持会、奥田　尚、奥村弥恵、森岡秀人、馬瀬智光、新田和央、西森正晃、黒須亜希子、平井信夫、岩村義憲、中川亀造、武内良一、久保　孝、青地一郎、福家恭、竹村亮仁をはじめとする関係機関、諸氏諸嬢にご高配を賜った。記して感謝したい。

目　　次

はじめに・例言
目次
第１章　2017年度の文化遺産調査概要と経過…… 1
第２章　山科大塚・小山石切丁場クレーター状平場の発掘調査…… 2
第３章　大塚・小山石切丁場葭ヶ谷Ａ地区の調査（その２）…… 8
第４章　二条城東側堀川石垣の調査（その１）……25

図・表目次

図１　山科大塚・小山石切丁場位置図…… 2
図２　山科大塚・小山石切丁場刻印・矢穴石、地区位置図…… 3
図３　クレーター状平場地形測量図、トレンチ配置図…… 4
図４　クレーター状平場トレンチ土層断面図…… 5
図５　クレーター状平場トレンチ平面図…… 6
図６　葭ヶ谷Ａ地区の地形図刻印・矢穴石の分布…… 9
図７　葭ヶ谷Ａ地区矢穴形状からみた採石状況……11
図８　矢穴：山科Ⅲ型断面図（１）……13
図９　矢穴：山科Ⅲ型断面図（２）……14
図10　矢穴：山科Ⅱ型断面図……15
図11　矢穴：山科Ⅰ型断面図……16
図12　矢穴：山科Ⅴ型断面図……17
図13　葭ヶ谷Ａ地区の分類からみた刻印・矢穴石の分布……17
図14　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石（１）……18
図15　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石（２）……19
図16　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石（３）……20
図17　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石（４）……21
図18　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石（５）……22
図19　二条城東側堀川石垣調査位置……25
図20　二条城東側堀川石垣調査位置詳細……25
図21　二条城東側堀川石垣調査区域設定図……26
図22　二条城東側堀川石垣Ｎ区（１）……27
図23　二条城東側堀川石垣Ｎ区（２）……28
図24　二条城東側堀川石垣Ｎ区（３）……29
図25　二条城東側堀川石垣Ｎ区（４）……30
図26　二条城東側堀川石垣Ｎ区（５）……31
図27　二条城堀川石垣矢穴断面図……32

表１　葭ヶ谷Ａ地区　矢穴石リスト……12
表２　二条城東側堀川石垣刻印一覧表……33

第１章

2017年度の文化遺産調査概要と経過

１．2017年度の調査状況

今年度の考古遺産の現地調査作業については、夏期を中心に、京都市山科区大塚・小山石切丁場、京都市中京区二条城東側堀川石垣の調査を実施した。

本書の全体の整理作業にあたっては、歴史遺産学実習の授業を中心に行った。

２．京都市山科区大塚・小山石切丁場、大塚東群葭ヶ谷Ａ地区の石材実測調査

京都市山科区大塚・小山の山中に所在する石切丁場では、本学の裏山となる行者ヶ森の山の頂上付近から東及び北斜面の大塚と山科・音羽川を離てた小山の山中に刻印と矢穴のある石が分布する。大塚は刻印や矢穴石の分布によって大きくわけて、大塚西群と大塚東群に分けることができる。

その石切丁場のうち今年度は大塚東群の葭ヶ谷Ａ地区の測量及び矢穴の残る石材の分布把握と実測の補足を、特に今年はＡ地区西側を中心に行った。

調査は一瀬和夫を調査主任とし、広瀬侑紀がこれを助けた。日程は、2017年８月21～24・26・27日・12月27日に行った。調査参加者は浅野豊、安達友美、伊藤真子、上野真依、浦田雅士、岡田一矢、金井隼弥、河端大、金剛佳佑、谷敷朋奈、畝麻由美、中谷俊哉、中西由圭莉、西浦千賀、西村侑里子、晩田大樹、藤井駿佑、松谷友香、山中凌、山本美喜、渡辺真帆である。

３．二条城堀川石垣の実測調査

京都市には聚楽第・伏見・二条・淀城といった中世末～近世前期石垣城郭がある。近年では、京都市内の頻繁な発掘調査などでその様子が詳細に判明しつつある。伏見区伏見城の石垣石材は廃城の後、二条城や淀城にも再利用が認められるところである。中京区二条城東側の堀川護岸にも矢穴・刻印をもつ石材がある。これらの石垣石材の中には石切のための矢穴を残す石材、刻印の入った石材もあり、山科大塚・小山石切丁場との関連も考えられる。

今回本学は、昨年に続いて二条城堀川石垣の実測を行った。

調査は一瀬和夫を調査主任とし、広瀬侑紀がこれを助けた。日程は、2017年９月14・15・17日・12月15日に行った。

調査参加者は、浅野豊、上野真依、浦田雅士、大澤陽平、岡田一矢、景山敦也、金井隼弥、河端大、金剛佳佑、畝麻由美、中西由圭莉、西浦千賀、西村侑里子、晩田大樹、藤井駿佑、三加茂貫太、山中凌、山本美喜、渡辺真帆である。

写真１　山科大塚・小山石切丁場　調査風景

写真２　山科大塚・小山石切丁場　調査風景

写真３　二条城堀川　石垣実測調査

写真４　二条城堀川　石垣実測調査

第２章

山科大塚・小山石切丁場クレーター状平場の発掘調査

１．調査の経緯

京都市聚楽第、伏見・二条・淀城といった中世末～近世前期石垣城郭が京都市内の頻繁な発掘調査などで詳細に判明しつつある。現在一部が明治天皇陵に含まれてる伏見城跡は、三の丸南辺から四の丸にかけての石垣材が宮内庁に調査され、現地に展示される[1]。西側の御香宮神社にも矢穴石や刻印石が集められる[2]。伏見城の石垣石材は二条城や淀城に再利用される実態も認められる。二条城東側の堀川護岸にも矢穴・刻印をもつ石材がある。すなわち、これらの石垣石材の中には石切のための矢穴を残す石材、類する刻印、石種は花崗斑岩・石英斑岩など、京都市山科区大塚・小山の山中に所在する山科大塚・小山石切丁場との関連する石材が数多く認められつつあるからである。今回はこの山科大塚・小山石切丁場のクレーター状平場の状態を確認することを目的とし、京都市とともに平成28年８月に発掘調査を行った[3]。すでに京都市報告書において報告済みのものであるが、ここで再録・再構成を試みるものである。

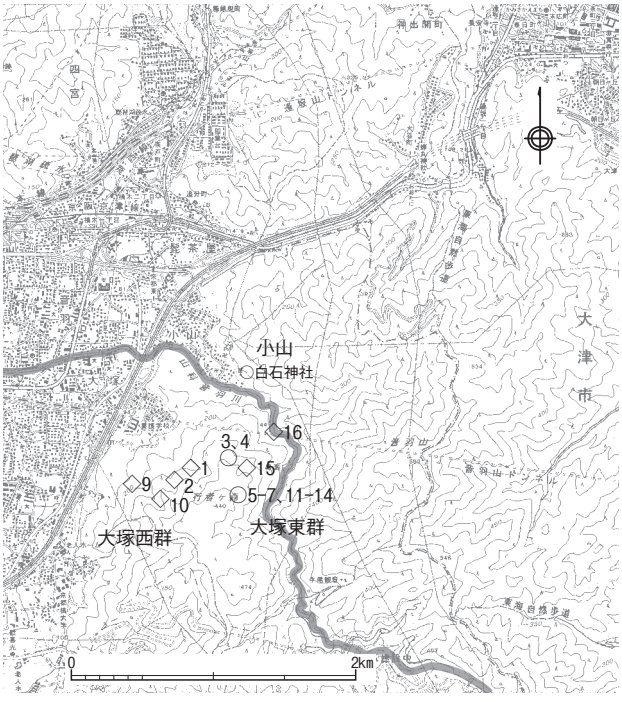


図１　山科大塚・小山石切丁場位置図

２．遺跡の位置と環境

京都市山科区は京都市の東部にこの山科石切丁場は所在している。その範囲は行者ヶ森周辺の大塚と、山科音羽川を挟んで北側に位置する小山にひろがる。山科石切丁場には、山科盆地の北東の行者ヶ森の山頂上付近から東及び北斜面の大塚と山科音羽川を北に隔てた小山の山裾に刻印と矢穴のある石が分布する。

この石切丁場から得られた石材の供給先に関連する伏見城は、1594（文禄３）年、豊臣秀吉の伏見城を築城から徳川家光の1623（元和９）年の廃城まで、長期間に及ぶ４回の大きな改築城があった。その全期間を通して稼働していたと考えられる。

この石切丁場がある地域は行者ヶ森北方の東斜面に集中する。行者ヶ森一帯には御坊ノ内町付近から聴呪の滝にかけて、剪断された頁岩中にチャートや玄武岩質凝灰岩、砂岩のレンズ状をなす岩体が含まれ、その内、花崗斑岩は聴呪の滝を越えた部分から音羽の滝の南方まで分布する。そして、この花崗斑岩は行者ヶ森の北方にかけて分布し、尾根の西側では斑晶が顕著な石英斑岩となる。すなわち、行者ヶ森から小山の御坊ノ内町にある白石神社付近北方にかけて、石英斑岩を岩脈となす。こうしたことから、刻印石材の種類は、主に玄武岩質凝灰岩と石英斑岩及び、花崗斑岩となる[4]。

このうち刻印石や矢穴石のまとまり方で大塚（大塚西群、大塚東群）、小山の２つに大きくわけられ、刻印石は現在約15石が確認される。

３．層序と遺構

クレーター状平場は、刻印石や矢穴石が集中する大塚東群のうち葭ヶ谷Ａ地区の中心から急斜面を北に下った場所にある。クレーター状のくぼみの周りを囲むように

写真５　山科大塚・小山石切丁場遠景（北西より）

ドーナツ状の土の盛り上がりもみられる。このクレーター状の平場では、自然石が数石あるだけで、矢穴石は1石しか見つかっておらず、矢穴石周辺は丘陵を切り崩して平場が作られている。その中央にあるくぼみに、形状の異なった矢穴が掘られている石がある。矢で少なくとも3回は石を切った痕が残る。長辺が190cm、短辺が105cmの石英斑岩である。一昨年の報告では近世城郭の石垣石材として粗割りされたものが仮置き後に放置されたものと推測した[5]。

今回の調査では、この石の東側に南北方向に長いトレ

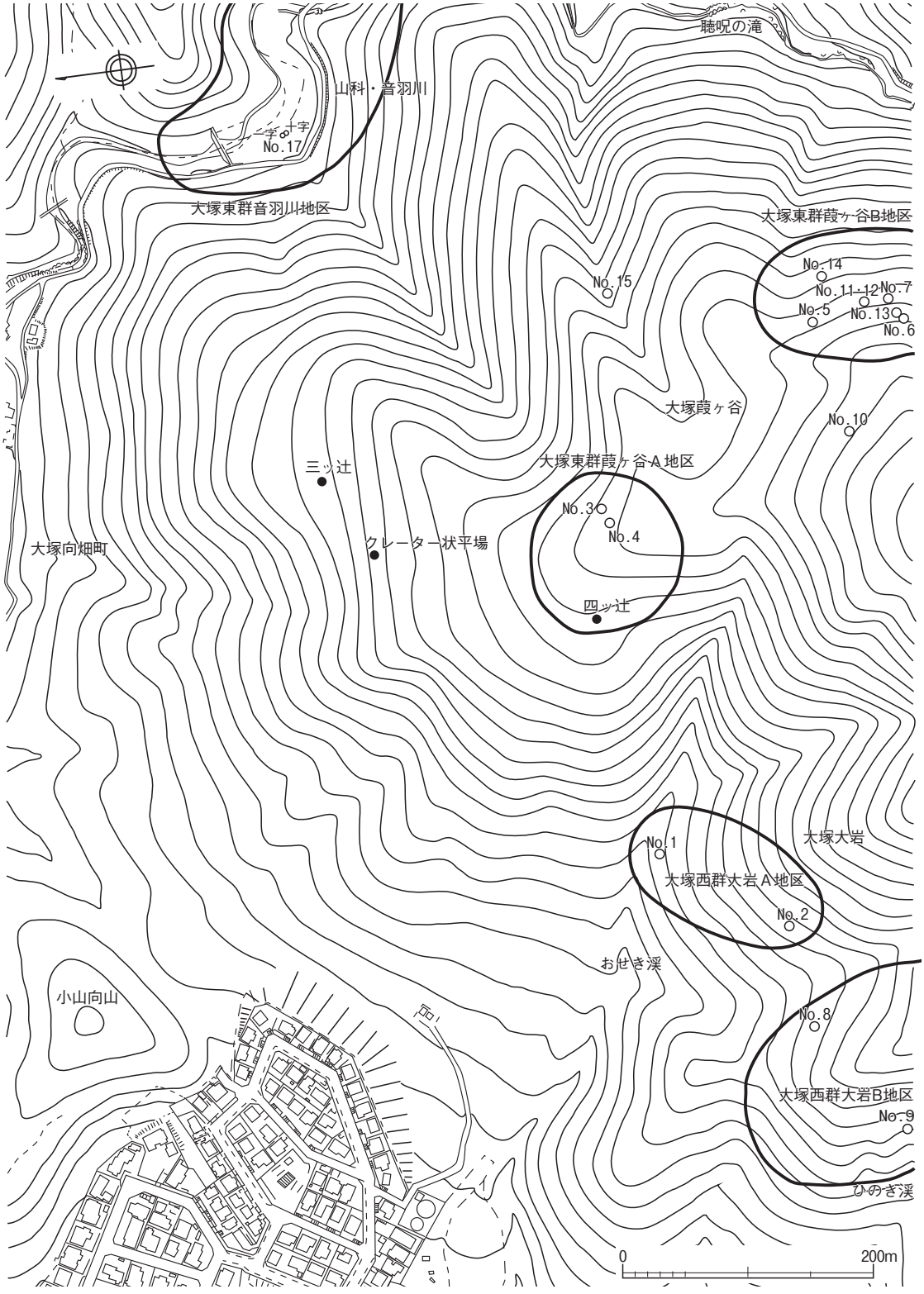


図2　山科大塚・小山石切丁場刻印・矢穴石、地区位置図

図３　クレーター状平場地形測量図、トレンチ配置図

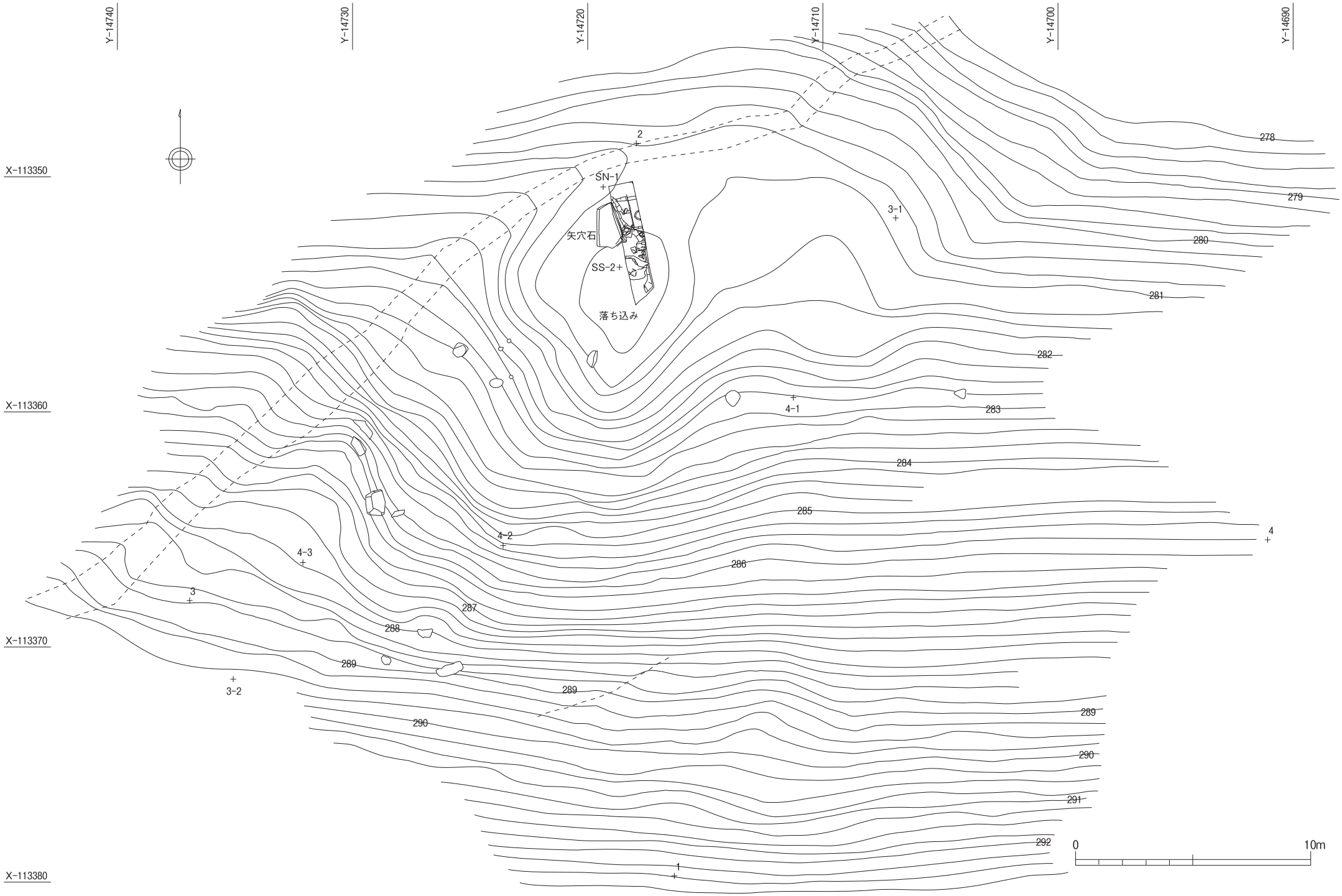
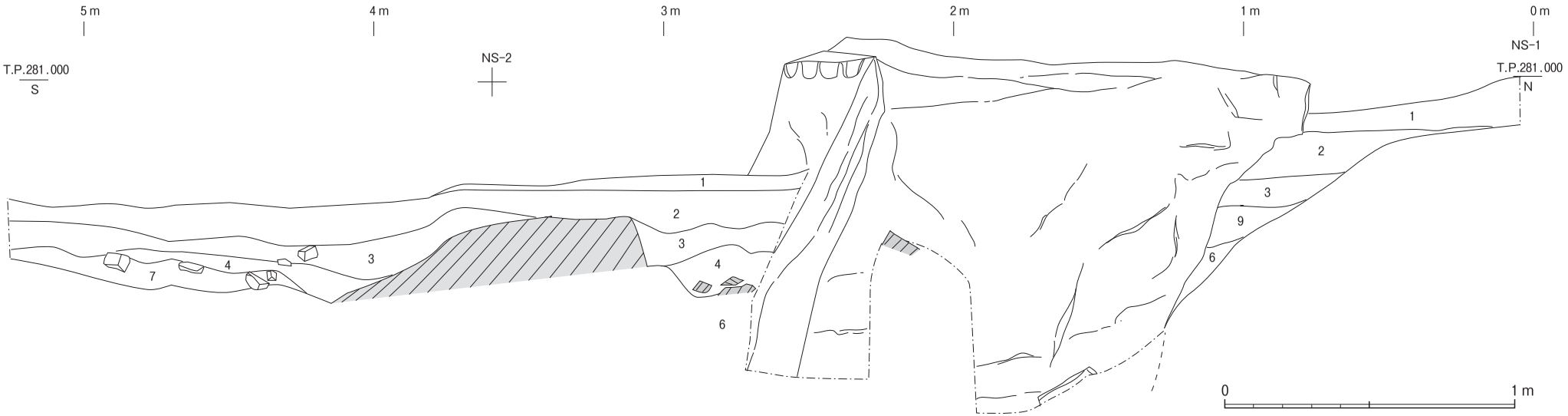
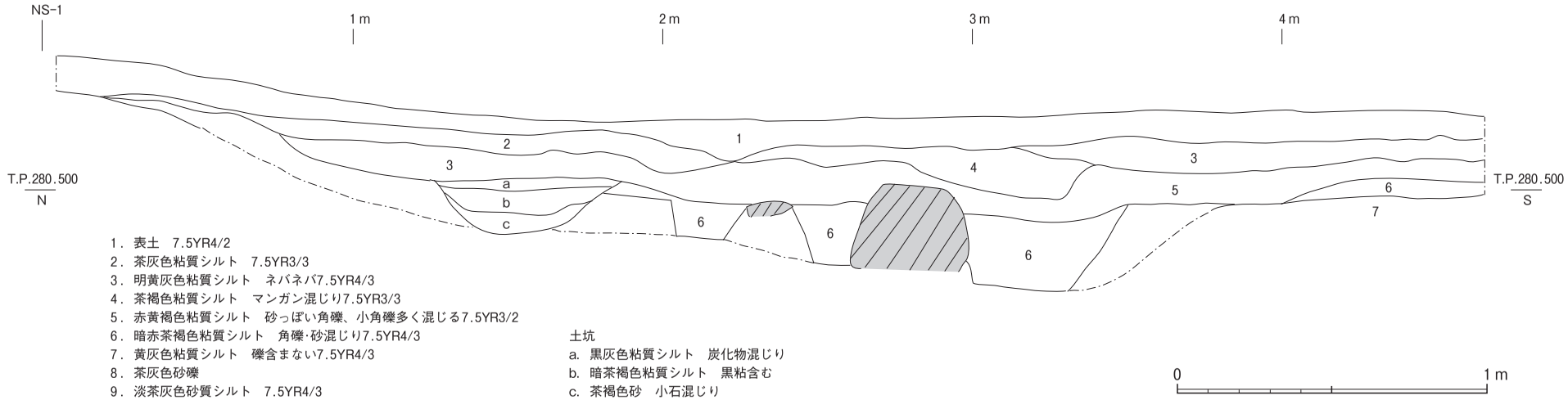


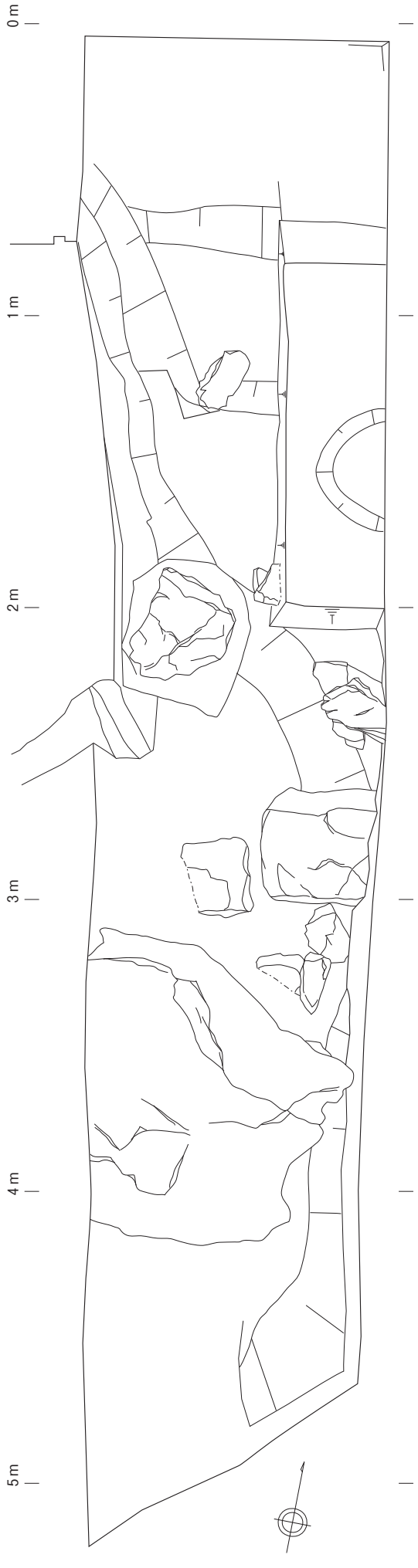
図4　クレーター状平場トレンチ土層断面図





1．表土　7.5YR4/2
2．茶灰色粘質シルト　7.5YR3/3
3．明黄灰色粘質シルト　ネバネバ7.5YR4/3
4．茶褐色粘質シルト　マンガン混じり7.5YR3/3
5．赤黄褐色粘質シルト　砂っぽい角礫、小角礫多く混じる7.5YR3/2
6．暗赤茶褐色粘質シルト　角礫･砂混じり7.5YR4/3
7．黄灰色粘質シルト　礫含まない7.5YR4/3
8．茶灰色砂礫
9．淡茶灰色砂質シルト　7.5YR4/3

土坑
a．黒灰色粘質シルト　炭化物混じり
b．暗茶褐色粘質シルト　黒粘含む
c．茶褐色砂　小石混じり



ンチを人力で掘削し、石の状態を確認した。トレンチは南北に５m、東西に１mの大きさで、深さは117cmの大きさである。深さは、まだ50cmは下がると見込まれることから、石の全体の大きさは少なくとも160cmはあると考えることができる。また、この矢穴石より南へ70cm程の場所に幅１mほどの石があることが確認できた。さらに、石の東側へ90cmの地点では、土坑も確認することができた。

東壁は、第１～７層まである。第１～３層は１m地点までは緩やかに傾斜しているが、その後は南にかけて水平に堆積する。１m50cm地点の土坑は黒灰色粘質シルトの炭化物まじりのａ層と暗茶褐色粘質シルトの黒粒を含むｂ層が堆積する。第４層は茶褐色粘質シルトのマンガン混じりで最大で16cmに広がる。第５層は赤黄褐色粘質シルトで砂質に、角礫、小角礫が多く混じる。最大で17cmの厚みの広がりをみせる。第６層は、暗赤茶褐色粘質のシルトに角礫の砂が混じっている。

西壁では第７層は黄灰色粘質なシルトで礫は含まれて

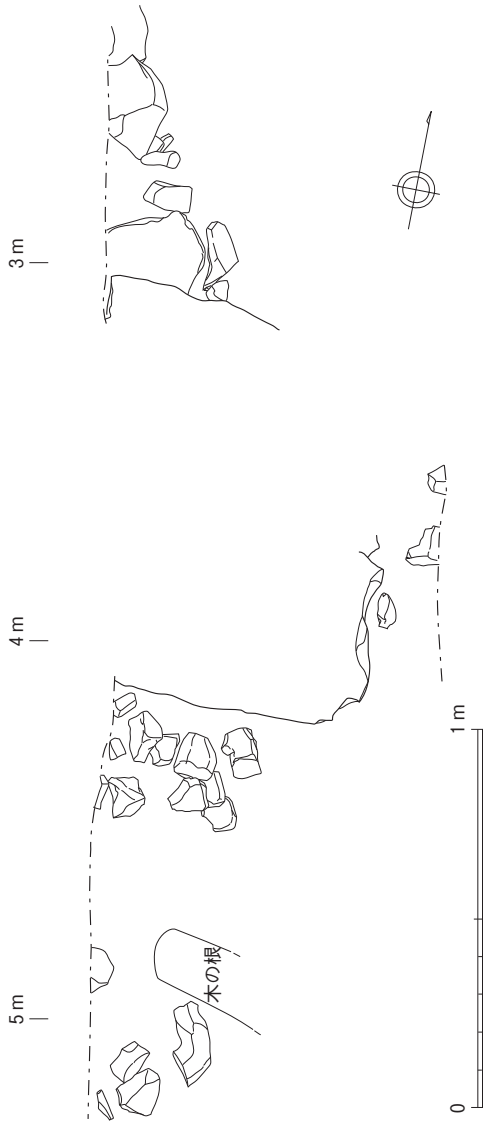


図５　クレーター状平場トレンチ平面図

いない。第８層は地山で茶灰色砂礫である。第９層は淡茶灰色砂質のシルトであり、何も含まれない。

南にある幅１ｍの石を中心に西壁２ｍ70cmの矢穴石の終わりの地点から５cm台のコッパが南にかけてみられはじめる。また、４ｍ付近から、大きさが10cm台のコッパが散らばっている様子がみられはじめる。

このことからもわかるように、矢穴石より周辺50cm周辺では５cm、10cm、15cm台のコッパが大量に出土する（写真９）。

４．矢穴石所在のクレーター状平場の周囲

クレーター状平場矢穴石がある地点を中心としてすり鉢状土坑を掘っている。この矢穴石は異った場所で石を逐次割り、ここへ運んできたのではなく、おそらく最終的には２ｍ以上あった巨石を、この平場で割っていた可能性が高まった。そのことを示すように、矢穴石周辺ではコッパが大量に出土する。すり鉢状土坑は、３ｍ近く採石のために深く掘った可能性がある。また、このすり鉢状の土坑を掘削した際に発生した掘削残土は土坑周囲にかきあげたために、ドーナツ状の土堤のようなものが形成されたと考えられ、その掘削土量と対比できよう。つまり、クレーター状平場のくぼみを囲むように盛り上がっている土は、この時の排土によって形成された地形であるということが確認できたと考える。

註

（１）有馬　伸　2009「桃山陵墓地下水道管布設工事に伴う立会調査」『書陵部紀要』第60号　宮内庁書陵部

（２）京都橘大学文学部　2017『京都橘大学歴史遺産調査報告2016』

（３）嵯峨根絵美　2017「大塚・小山石切丁場（16A003）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成28年度』京都市文化市民局

（４）奥田　尚　2016「行者ヶ森付近の石切場跡の石材と石種」『古代学研究』209号

（５）京都橘大学文学部　2016『京都橘大学歴史遺産調査報告2015』

参考文献

武内良一　2015「「山科の石」について―伏見城関連　山科（大塚・小山）の石切場―（下）」『古代学研究』207号

（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　2001「是ヨリ北紀州」考古アラカルト26『リーフレット京都』No.153

山科石切場調査・研究グループ　2015『伏見城関連の石切場について―「豊徳」期における石垣石材調達をめぐる所見の２、３―』

写真６　クレーター状平場トレンチ下面（南より）

写真７　クレーター状平場トレンチ北半断面（東より）

写真８　クレーター状平場トレンチ上面（北より）

写真９　クレーター状平場トレンチ南半断面（北東より）

第３章

大塚・小山石切丁場葭ヶ谷Ａ地区の調査（その２）

１．調査地の位置と調査の経過

山科大塚・小山石切丁場は、京都府山科区に所在する石切丁場である。これらの石切丁場は、2015年から地元調査グループや京都橘大学で調査を進めてきた（山科石丁場2015、京都橘大学2016・2017）。昨年は、大塚・小山石切丁場の葭ヶ谷Ａ地区において、測量調査及び石材分布調査を行った。その結果、葭ヶ谷Ａ地区の東斜面の採石状況が明らかになった。加えて、未調査であった西斜面でも矢穴石が散見する状況が確認できた。

そこで、今回の調査は、昨年に調査を実施した四ッ辻から小ピークを囲む東斜面の範囲からは、尾根を跨いだ西側斜面で実施した。そのうち東西40m、南北60m（〔Ｘ＝-113540、Ｙ＝-14770〕～〔Ｘ＝-113590、Ｙ＝-14700〕）の範囲を調査地に設定した。

調査は、設定した範囲内において、標高372.00～342.50mの地形測量を行い、範囲内の石材を悉皆的に確認した。矢穴のある石材については石材の規模と形状を実測し台帳を作成した。また、矢穴石は矢穴の寸法を計測し、矢穴の台帳および矢穴の横断面形状の実測も合わせ行った。

２．調査成果

（１）石材分布調査

今回の調査では、昨年の調査地から西側の範囲において地形測量を行い、石材の分布状況を確認した（図６）。調査地の周辺は、葭ヶ谷Ａ地区内の刻印石や矢穴石が多く分布する東斜面と今回の調査地である西斜面をわける尾根が南東から北西方向にのびる。その尾根の頂部には山道が通り、小ピークとなる山頂手前のＴ.Ｐ.361～362m付近で二股となる。その山道の一方は昨年の調査地である東斜面の中央平場につながり、もう一方は行者ヶ森山頂へと向かうハイキングコースとなっている。また、小ピーク付近は自然石が路頭するだけであったが、尾根より西側の斜面には、およそ40石以上の石材が分布し、その内の８石が矢穴石である。

西側の地形測量の追加の結果、昨年はわからなかったこの地区のピーク（Ｔ.Ｐ.372.09m）から北西方向にのびる尾根や西側の谷地形の状況が明らかとなった。尾根を境とした西斜面は、東斜面に較べ急峻な傾斜となっており、矢穴石がまとまって分布する地点（No.36～39）付近はやや窪地となっており、石材の採掘坑の可能性が考えられる。そこから10m程下がったところにあるNo.42の巨石に向かって、谷状の地形となっている。また、そこから少し離れた位置にもNo.43の矢穴石が見られるが、基本的にはこの谷状の地形に向かって石材を落としていたと考えられる。

一方、尾根の頂上付近は東西両斜面ともに自然石を残したままになっている。石材の採掘はそれよりも高所の尾根筋では行わなかったと推定される。何らかの境界を意識して残した可能性もある。また、東斜面に較べ、石材の分布が少ない状況である。西斜面は急勾配な地形に加え、谷状の地形を利用すれば、西方に向かう石材の搬出は東斜面より比較的容易である。そのため、手ごろな石材がより多く採掘された可能性もある。さらに、谷状の地形は南で「おせき渓」をつくる谷地形に合流し、下った先は大岩Ａ地区に至る（図２）。

次に石材の特徴を見てみると、葭ヶ谷Ａ地区の矢穴石の大半は古相を思わせる二分割する石割りによって残されたものである。西斜面の石材も同様の技法のもので構成されるが、No.42の石材は長辺約4.5m、短辺約2.5mの規模で、大型の矢穴で平坦面を作り出した後、規格石材に切り分ける近世城郭の石割技法が用いられている。そして、この石材には２種類の矢穴形状をもつ矢穴列が掘られており、この付近で２回以上の採石があったことを窺わせる。

（２）矢穴の調査

山科大塚・小山石丁場に見られる矢穴の調査は、昨年の調査から石材分布調査に合わせて実施してきた。その方法は、個別石材の矢穴列毎に矢穴の寸法を記録し、矢穴の横断面形状の実測図を作成するものである。

昨年の調査では、矢穴の規格を矢穴の縦断面形状の大きさから４つの形態にわけて分布状況を検討した。その結果、葭ヶ谷Ａ地区の東斜面においては、石材の採掘坑と考えられる窪みや谷状の地形に石材が集中して分布し、矢穴の規格の違いから丘陵斜面の下から上へと採石地点を移動させていったことを明らかにした。

今回の調査も同様の検討方法で矢穴石の分布状況を確認した。検討に用いた類型は以下のとおりである。

類型 1 （縦断面形状）

①矢穴大

上辺（10～15cm程度）と下辺（５～11.5cm程度）、全体に大きいもの。

②矢穴中大

上辺（９～10.5cm程度）と下辺（５～8.5cm程度）、中程度のもの。

③矢穴中小

上辺（７～8.5cm程度）と下辺（３～６cm程度）、中程度のもの。

④矢穴小

上辺（５～６cm程度）、下辺（３～４cm程度）、小型のもの。

東斜面では、縦断面形状の違いで石材の分布を見たところ、矢穴大・矢穴中大と、矢穴中小・矢穴小が異なった谷筋にまとまることが判明した。

西斜面では、No.36～39のまとまりとNo.40～42のまとまりには矢穴大と矢穴中大が見られた。特にNo.41とNo.42には２種類の矢穴列が入っており、縦断面形状を時期差と捉えるならば、２時期の採石が考えられる。一方、No.43は矢穴中小であり、他の矢穴石とは様相が異なる矢穴が用いられている。

類型 2 （横断面形状）

①矢底１列タイプ

矢底に１列のノミ痕が残るもの。横断面の上辺は3.0cm、下辺は1.0cm前後で、Ｖの字に近い形状である。

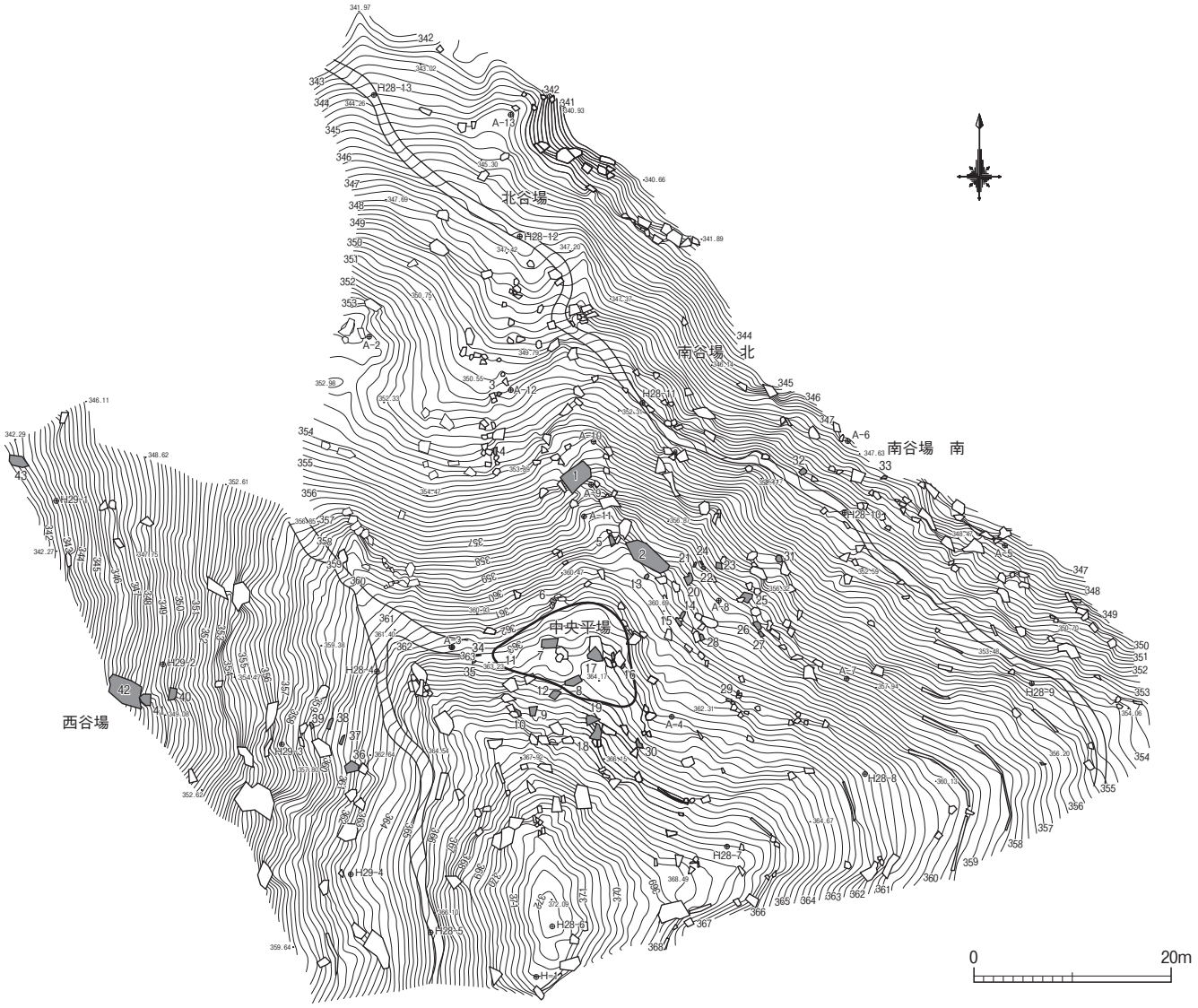


図６　葭ヶ谷Ａ地区の地形図刻印・矢穴石の分布

②矢底２列タイプ

矢底に２列のノミ痕が残るもの。横断面の上辺は5.0cm前後、下辺は2.0cm前後で、逆台形状である。

③矢底幅広タイプ

矢底の両端にノミ痕があり、中央を未成形もしくは簡易な成形でつくっている。横断面の上辺は5.0～6.0cm、下辺は2.6～4.4cmで、コの字に近い形状である。

横断面形状で石材の分布を見ると、東斜面では、矢底１列タイプのものは、No.８矢穴列Ｂ、No.17矢穴列Ａが確実なものである。他にも９石がその可能性があり、小型の矢穴（No.7・12）もある。矢底２列タイプは、No.21・23が典型例である。矢底幅広タイプは南西平場に見られた大型の矢穴である。

西斜面では、No.43が矢底１列タイプ、No.38・41矢穴列Ｃが矢底２列タイプ、No.41・42が矢底幅広タイプの矢穴である。

矢穴の横断面形状は、おそらく矢底１列タイプ、矢底２列タイプ、矢底幅広タイプの順に新しくなると想定され、西斜面の採石は、No.36～39付近とNo.43付近から採石をはじめ、No.40～42付近へと移っていったと考えられる。

（３）矢穴の分類

矢穴の形状について、縦断面形状（類型１）と横断面形状（類型２）のもつ特徴で類型化して見てみると、両類型には相関関係があることがわかる。これを整理すると以下のようになる。

山科Ⅰ型＝（類型１）矢穴中小＋（類型２）矢底１列
（No.８矢穴列Ｂ、No.17矢穴列Ａなど）（図11）

森岡・藤川分類の古Ａタイプ。縦断面形状は矢底がＵの字状のもの（Ⅰ－ａ型）と隅丸台形のもの（Ⅰ－ｂ型）がある。Ⅰ－ａ型は横断面形状もＵの字状であり、中世石造物などに見られる先Ａタイプの矢穴からの派生と考えられる。葭ヶ谷Ａ地区には見られないが、大塚・小山石切丁場内には存在が窺える。山科Ⅰ－ｂ型の横断面形状はＶの字に近い形状を呈する。

山科Ⅱ型＝（類型１）矢穴中大＋（類型２）矢底２列
（No.21・23・クレーター状平場石材矢穴列Ｂ・Ｃ[(1)]など）（図10）

森岡・藤川分類の古Ａタイプ。上辺が10cm×５cm前後の大型の矢穴であるが、縦断面形状は矢底が隅丸になり、縦断面形状も逆台形状となる。

山科Ⅲ型＝（類型１）矢穴大＋（類型２）矢底幅広
（No.7・10・19・32・41・42など）（図８・９）

森岡・藤川分類のＡタイプ。さらに大型の矢穴で、上辺は11～15cm×５～７cmである。縦断面形状は角のある逆台形状で、横断面は矢底が３cm前後もあるコの字形状を呈する。

山科Ⅳ型＝現在のところ該当なし。

森川・藤川編年のＢタイプ。今回の調査区では確認されていないが、丁場経営が予期されるので設定しておく。

山科Ⅴ型＝（類型１）矢穴小＋（類型２）矢底１列
（No.7・12）（図12）

森岡・藤川分類のＣタイプ。江戸時代中期以降の採石に伴うものである。

山科大塚・小山石切丁場の葭ヶ谷Ａ地区における矢穴の形状は、おおむねこの分類に当てはまると考えられる。この分類をもとに、葭ヶ谷Ａ地区全体の矢穴石の分布を確認してみると、図13のようになる。

山科Ⅰ型の矢穴は東西両斜面に見られる。数は少ないものの、東斜面の北谷場から中央平場に分布する。続く山科Ⅱ型では東斜面では本調査区での石切がピークに達するのであろう。南谷場南から中央平場に多く分布し、西斜面も西谷場の上方に見られる。山科Ⅲ型は主に中央平場付近と西谷場下方に限られる。山科Ⅴ型は東斜面の北谷場上方に点在する。割れ石材の２次的石切の可能性もある。

以上のような分布状況から、この付近の採石は北谷場から中央平場と西谷場の北半からはじまり、中央平場南と西谷場へと移行する。さらに東斜面では南西平場付近、西谷場では西谷場下方での採石が盛んとなる。東斜面は下から上へ、西斜面は上から下へと採石・採掘する範囲が移行していく様子が窺える。

３．ま と め

今回の調査は、石材の採石地の１つに推定される葭ヶ谷Ａ地区における石材の分布状況を把握する目的で実施した。これまでの調査によって、矢穴の形状から、複雑な採石状況を整理することができた。

今回調査した、葭ヶ谷Ａ地区の東斜面にある「一に○」刻印に対し、西斜面を下った先にある大岩Ａ地区は「角立ち四つ目結」刻印のエリアである。これは、西斜面に刻印石が見られないため、はっきりしたことは言えないが、現状では、葭ヶ谷Ａ地区の東西で採石した大名が異なることが考えられることから、搬出ルートなどの一部の共有や採石時期差など、刻印石による単純な区分

ではなく、様々な可能性を考慮する必要が生じてきた。この複合性が地表に露出した状況が、葭ヶ谷Ｂ地区には「一に〇」刻印と「平四つ目結」刻印が併刻された石材が３つも存在することが証左となる。

山科大塚・小山石切丁場は、伏見城築城に伴って採石が開始したとされている。伏見城は指月屋敷、指月城、小幡山伏見城、徳川伏見城、主要部の破却した徳川伏見城の５期に分けられる（福家ほか2017）。

一方、葭ヶ谷Ａ地区に見られる多種の矢穴によって、山科Ⅰ～Ⅴ型に分類できる。山科Ⅴ型は時期が大きく異なり、除外するとしても、３つの型式の矢穴が利用されていることは、伏見城築城と大きく関係しているのではないかと考えられる。

具体的に時期を検討してみると、山科Ⅲ型は大坂城石切丁場などで確認される森岡・藤川編年のＡタイプと同一のものである（森岡ほか2018）。つまり、この形式は元和・寛永期のものと推定される。そこから築城の時期と型式を合わせると矢穴の石切を殆ど用いない段階が指月城（文禄期）、山科Ⅰ型を小幡山城築城段階（慶長期）、山科Ⅱ型を徳川伏見城築城段階（慶長期）に当てはめることが可能と考える。

このように、これまでの調査によって、山科大塚・小山石丁場における遺跡の実態を解明していくことが、伏見城の築城にも関係していくことがわかってきた。この成果が、今後の研究に生かされることを期待したい。くわえて出土土器などの遺物も皆無であることも特徴の１つととらえたい。

註

（１）葭ヶ谷Ａ地区の北側下方にあるクレーター状平場にある石材は、発掘調査により長辺190cm、短辺105cm（最大幅）、高さ160cm前後の大きさであることが判明した。

石材には３つの面に矢穴列があり、葭ヶ谷Ａ地区を中心に矢穴の検討を行ってきた結果、この石材の矢穴列Ａの矢穴は山科Ⅲ型、矢穴列Ｂと矢穴列Ｃは山科Ⅱ型に該当する。

このことから、調査当初に想定していた石切工程の復元とは異なり、クレーター状平場にあった大型石材を矢穴列Ｂ・Ｃで分割した後に、石材を掘り出して矢穴列Ａによる分割を行ったと推定できる。

しかし、山科Ⅲ型の矢穴を使った採石は、葭ヶ谷Ａ地区の中央平場付近に目立つ。このクレーター状平場の石材がなぜ持ち出されずに残っていたのかなど、不明な点が残る。

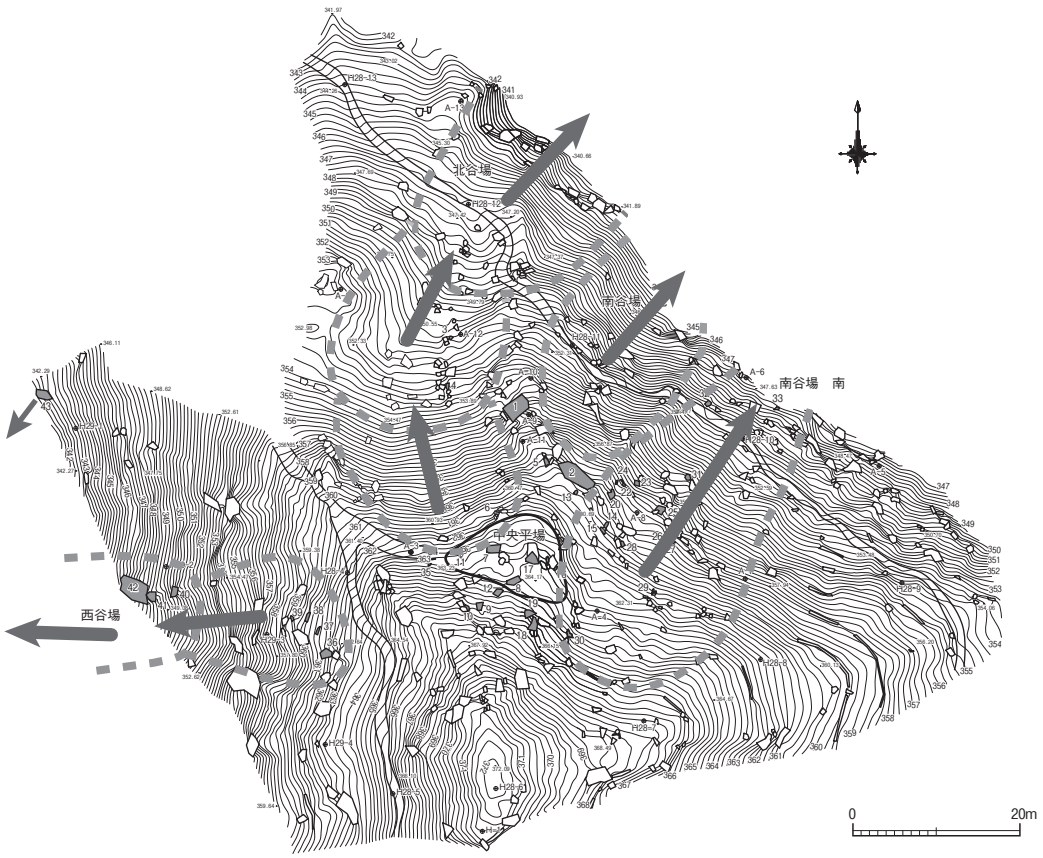


図７　葭ヶ谷Ａ地区の地形からみた採石状況

表1　葭ヶ谷A地区　矢穴石リスト

石材No.	列	矢穴							分類名	備考	
		縦断面		類型①	横断面		類型②	深さ		森岡・藤川分類	備考
		上辺	下辺		上辺	下辺					
42	A	23cm	18.5cm	◎◎	1.5cm以上	2.0cm以上	ー	12.1cm			5675-1
41	B	18.9cm	13.0cm	◎◎	6.2cm	4.8cm	◎◎	7.8cm			5675-2
32	B	15.0cm	11.5cm	◎◎	7.0cm	3.0cm	◎◎	12.0cm			5468-1
10		12.4cm	10.3cm	◎◎	4.7cm以上	4.4cm	◎◎	6.3cm		Aタイプ	5671-4
36	A	13.5cm	9.2cm	◎◎	5.0cm以上	2.0cm以上	◎－	11.0cm			5673-4
32	A	13.0cm	12.0cm	◎◎	6.0cm	2.5cm以上	◎－	10.5cm			5468-1
42	C	13.7cm	8.4cm	◎○	6.0cm	3.8cm	◎◎	9.0cm			5675-1
8	A	13cm	7.8cm	◎○	6.0cm	3.5cm	◎◎	14cm		Bタイプ	5671-2
19		12.0cm		◎－	6.0cm		◎－	4.5cm			5670-4、掘削途中？
28		11.0cm	9.0cm	◎◎	3.0cm以上	2.0cm以上	－◎	7.0cm	山科Ⅲ型		5567-8
40	B	16.0cm	8.9cm	◎○	3.6cm以上	2.3cm以上	－	8.0cm			5675-3
41	A	14.6cm	7.2cm	◎○	4.2cm以上	3.3cm以上	－	7.7cm			5675-2
40	A	14.2cm	8.1cm	◎○	2.0cm以上	2.3cm以上	－	7.7cm			5675-3
17	B	10.0cm	8.0cm	○－	4.5cm以上	4.0cm以上	◎◎	10.5cm			5670-2
42	E	9.4cm	8.2cm	○○	5.7cm	3.5cm	◎◎	6.4cm			5675-1
41	C	9.2cm	6.8cm	○△	2.8cm以上	4.0cm以上	－◎	6.0cm			5675-2
15		14cm	7.0cm	◎○	5.0cm	2.7cm	◎○	6.0cm			5570-3
42	D	12.3cm	7.2cm	◎○	5.6cm	2.8cm	◎○	9.8cm			5675-1
25		10.0cm	7.5cm	○○	5.5cm	2.6cm	◎○	1.8cm		Aタイプ	5569-5
42	B	12.5cm	8.0cm	◎○	4.5cm	1.5cm以上	○－	7.0cm			5675-1
34		12.0cm	8.0cm	◎○			－	10.0cm			5672-1、横断面計測不可
37		11.9cm	7.0cm	◎○	3.2cm以上	1.0cm以上	－	9.1cm			5673-3
39		11.7cm	8.4cm	◎○	3.8cm以上	1.8cm以上	－	6.7cm			5673-1
21	B	11.5cm	8.0cm	◎○	1.0cm以上	1.0cm以上	－	11.0cm	山科Ⅲ型？		5569-2
6		11.0cm	8.0cm	◎○	4.0cm以上	2.0cm以上	－	7.0cm			5571-1
9		11.0cm	6.0cm	◎△	3.0cm以上	1.0cm以上	－	9.5cm			5671-3
11		11.2cm	5.0cm	◎△	3.0cm以上	1.0cm以上	－	9.4cm			5671-5
31	B	10.0cm	9.5cm	○◎	1.5cm以上		－	9.5cm			5568-1
23		10.0cm	9.0cm	○◎	5.0cm以上	1.7cm	◎△	7.0cm	山科Ⅱ型		5569-4
21	A	9.0cm	8.5cm	○○	4.8cm	1.9cm	○△	6.5cm			5569-2
18		10.0cm		○－	5.0cm		◎－	8.0cm			5670-3、掘削途中？
31	A	10.0cm	8.0cm	○○	4.5cm以上	2.0cm以上	－	6.0cm			5568-1
27		10.0cm	8.0cm	○○	4.0cm以上		○－	8.0cm			5569-7
30		10.5cm	7.0cm	○○	4.5cm以上	1.2cm以上	○－	8.7cm			5770-1
24		10.5cm	8.0cm	○○	1.5cm以上	0.5cm以上	－	8.0cm			5569-a
35		10.0cm	8.0cm	○○	2.0cm以上	0.8cm以上	－	7.0cm		古Aタイプ	5672-2
38		9.8cm	7.0cm	○○	3.4cm以上	0.8cm以上	－	6.3cm	山科Ⅱ型？		5673-2
16		9.0cm	8.0cm	○○			－	7.2cm			5670-1、横断面計測不可
14		9.0cm	7.0cm	○○	1.5cm以上	0.8cm以上	－	5.0cm			5570-2
32	D	10.5cm	5.5cm	○△	3.5cm以上	2.0cm以上	－	7.5cm			5468-1
32	E	9.0cm	6.0cm	○△	2.0cm以上		－	7.0cm			5468-1
29		10.0cm	6.0cm	○△			－	10.0cm			5669-a
33		9.0cm	5.0cm	○△	3.0cm以上	0.8cm以上	－	9.0cm			5467-1
8	B	8.5cm	6.0cm	△△	3.0cm	1.0cm	△×	7.9cm	山科Ⅰ型		5671-2
17	A	7.5cm	5.0cm	△△	4.3cm以上	1.2cm	○×	10.0cm			5670-2
26		8.0cm	7.0cm	△○	2.0cm以上		－	6.0cm			5569-6
22		8.5cm	6.0cm	△△	1.0cm以上	0.5cm以上	－	9.0cm			5569-3
32	C	8.0cm	6.5cm	△△	0.5cm以上		－	9.0cm			5468-1
5		8.0cm	5.5cm	△△	2.5cm以上	1.0cm以上	－	9.0cm			5470-a
43		7.5cm	5.3cm	△△	2.0cm以上	1.0cm以上	－	7.5cm	山科Ⅰ型？	古Aタイプ	5476-1
20		7.0cm	5.0cm	△△	2.5cm以上	1.0cm以上	－	6.5cm			5569-1
3		8.0cm	4.5cm	△×	1.5cm以上	1.0以上	－	5.5cm			5371-1
13		8.5cm	4.5cm	△×	2.0cm以上	1.5cm以上	－	4.5cm			5570-1
36	B	7.0cm	4.0cm	△×	2.0cm以上	0.7cm以上	－	7.8cm			5673-4
4		7.0cm	3.0cm	△×	3.0cm以上	0.3cm以上	－	4.0cm			5471-2
7		5.8cm	4.0cm	××	2.0cm以上	0.5cm以上	－	4.8cm	山科Ⅴ型	Cタイプ	5671-1
12		5.5cm	3.5cm	××	2.0cm以上	0.5cm以上	－	5.0cm			5671-a

※№1、№2は刻印のみで矢穴は無し。

＜凡例＞
類型①（縦断面形状）
【縦断面上辺】◎＝11.0cm以上、○＝9.0～10.9cm、△＝7.0～8.9cm、×＝7.0cm未満
【縦断面下辺】◎＝ 9.0cm以上、○＝7.0～ 8.9cm、△＝5.0～6.9cm、×＝5.0cm未満

類型②（横断面形状）
【横断面上辺】◎＝5.0cm以上、○＝4.0～4.9cm、△＝4.0cm未満
【横断面下辺】◎＝3.0cm以上、○＝2.6cm前後、 △＝2.0cm前後、×＝1.0cm前後

山科Ⅲ型

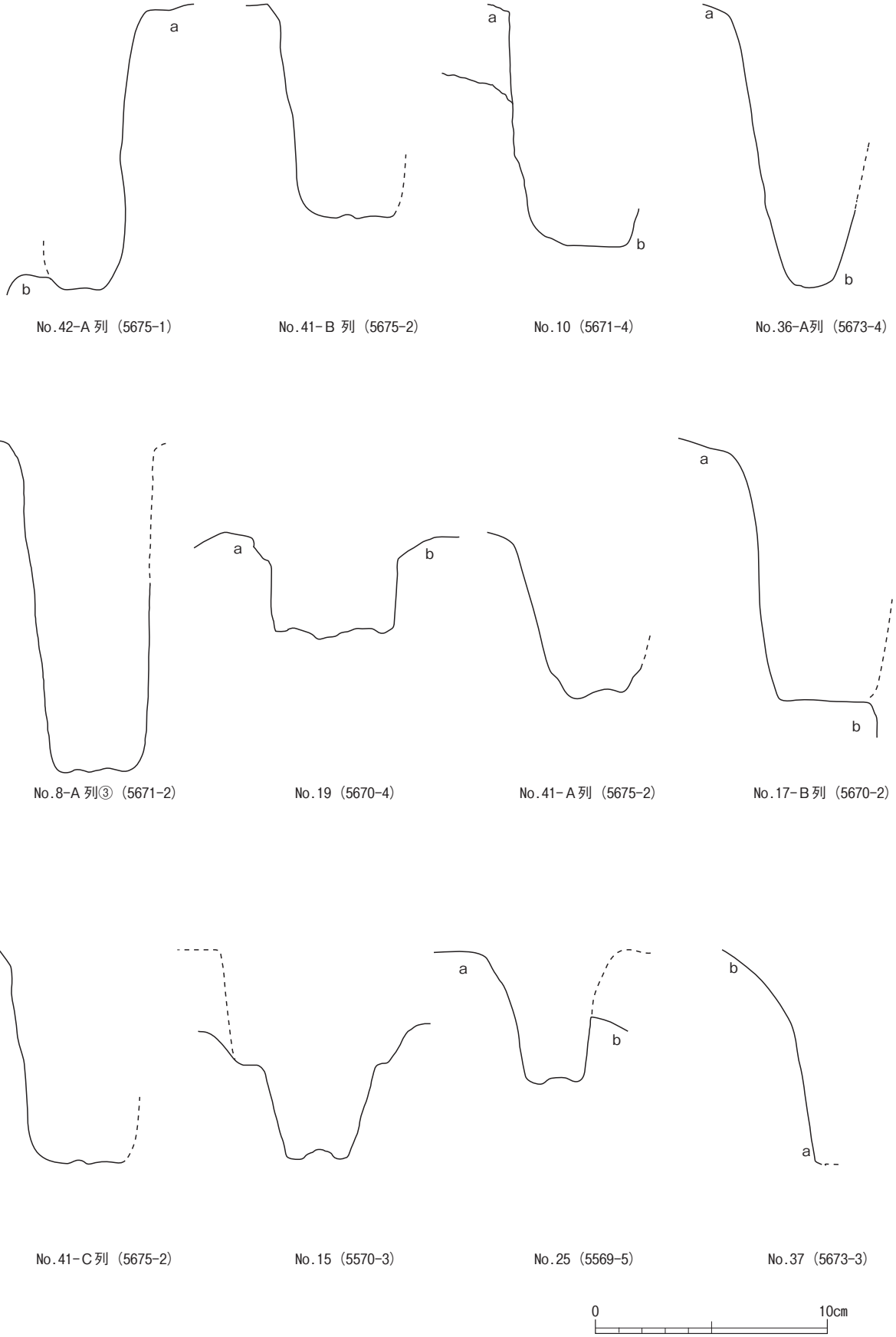
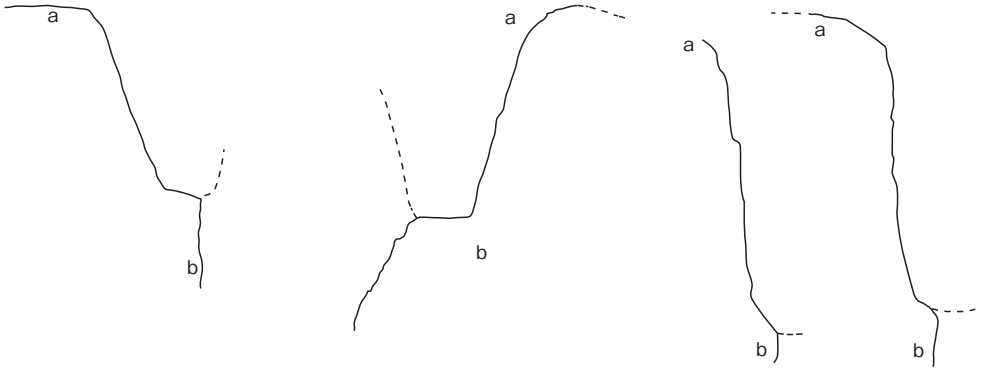


図８　矢穴：山科Ⅲ型断面図（１）

山科Ⅲ型



No.39（5673-1）　No.6（5571-1）　No.11（5671-5）

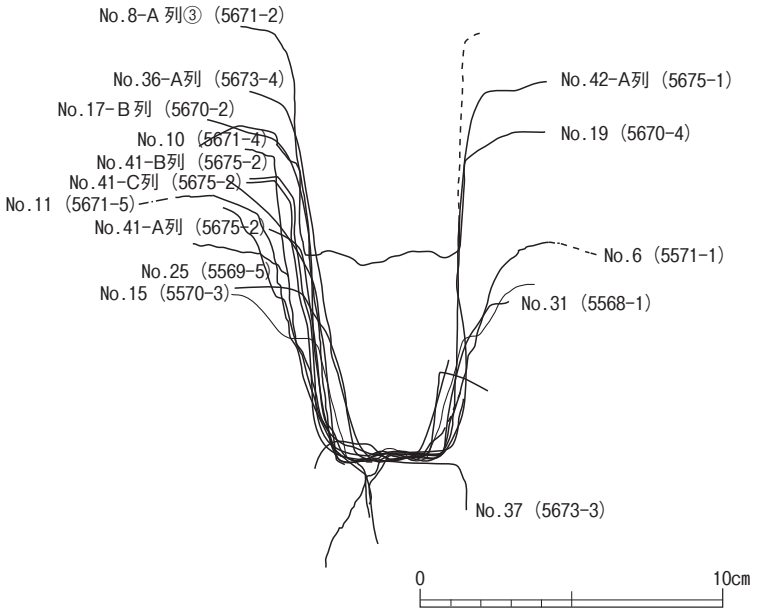


図９　矢穴：山科Ⅲ型断面図（２）

参考文献

京都橘大学文学部　2016『京都橘大学歴史遺産調査報告2015』

高田祐一　2016「採石・加工技術研究における研究方法」『第３回中世採石・加工技術研究会発表資料集』中世採石・加工技術研究会

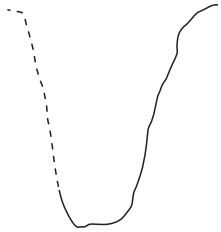
中居和志　2014「伏見城跡」『京都府中世城館調査報告書』第３冊　京都府教育委員会

福家恭・高田祐一・広瀬侑紀　2017「伏見桃山城（桃山陵墓地）および山科石切場の矢穴からみた採石技術の変遷（試案）」『京都橘大学大学院研究論集』第15号　京都橘大学

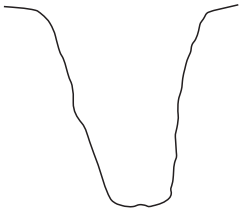
森岡秀人・藤川祐作　2008「矢穴の型式学」『古代学研究』180号　古代学研究会

山科石切場調査・研究グループ　2015『伏見城関連の石切場について―「豊徳」期における石垣石材調達をめぐる所見の２、３―』

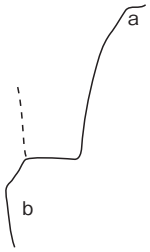
山科Ⅱ型



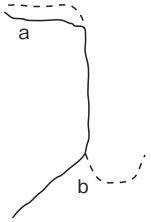
No.23（5569-4）



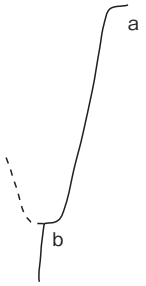
No.21（5569-2）



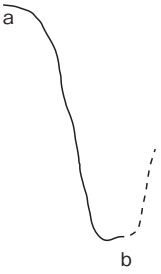
No.31-A列（5568-1）



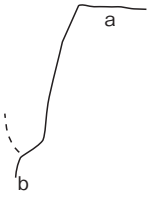
No.24（5569-a）



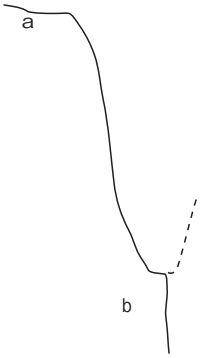
No.35（5672-2）



No.38（5673-2）



No.14（5570-2）



No.33（5467-1）

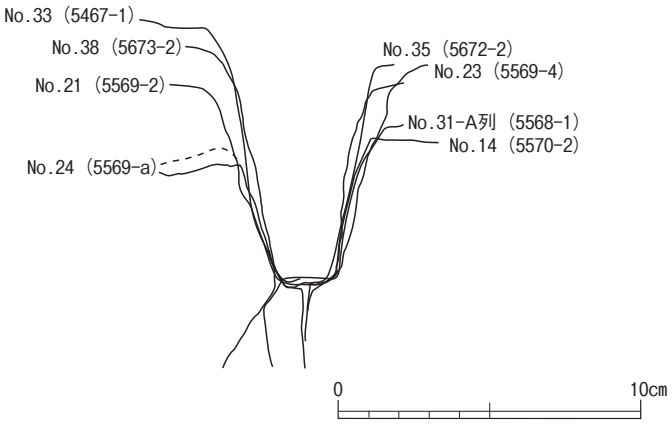
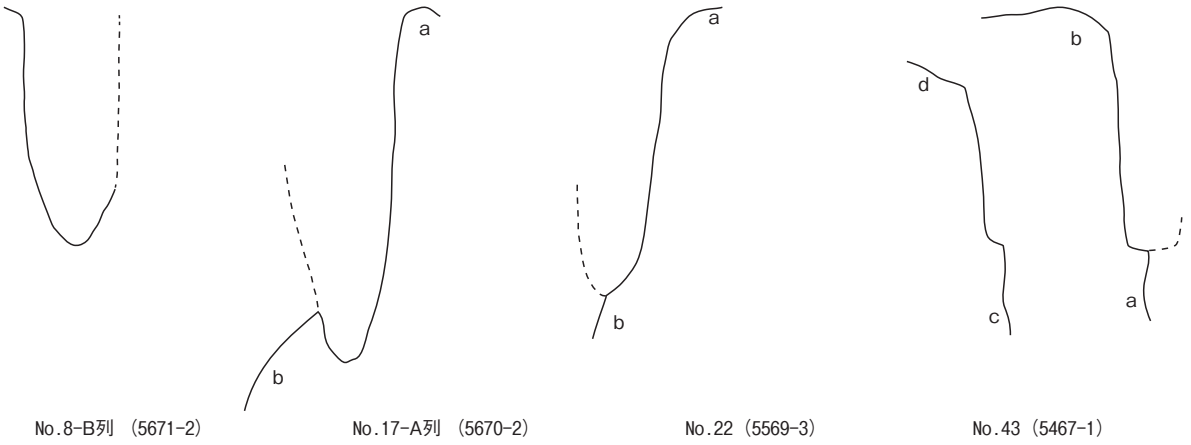
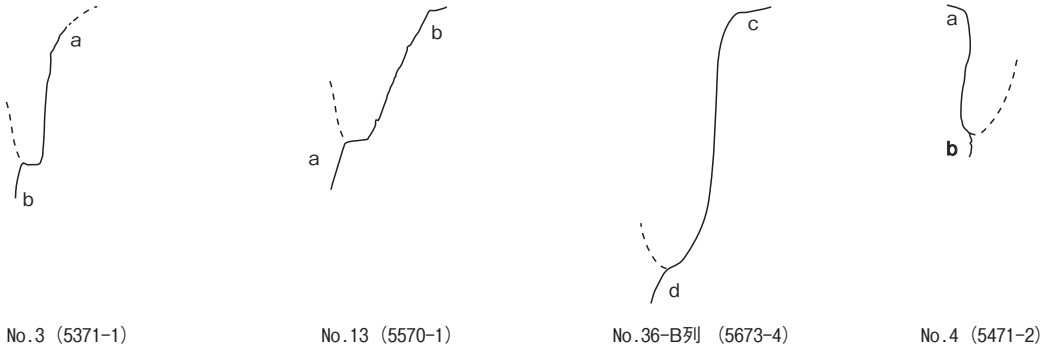


図10　矢穴：山科Ⅱ型断面図

山科Ⅰ型





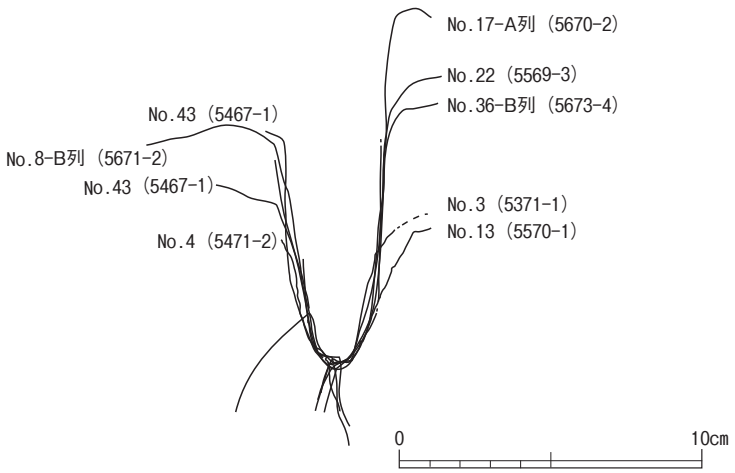


図11　矢穴：山科Ⅰ型断面図

山科Ｖ型

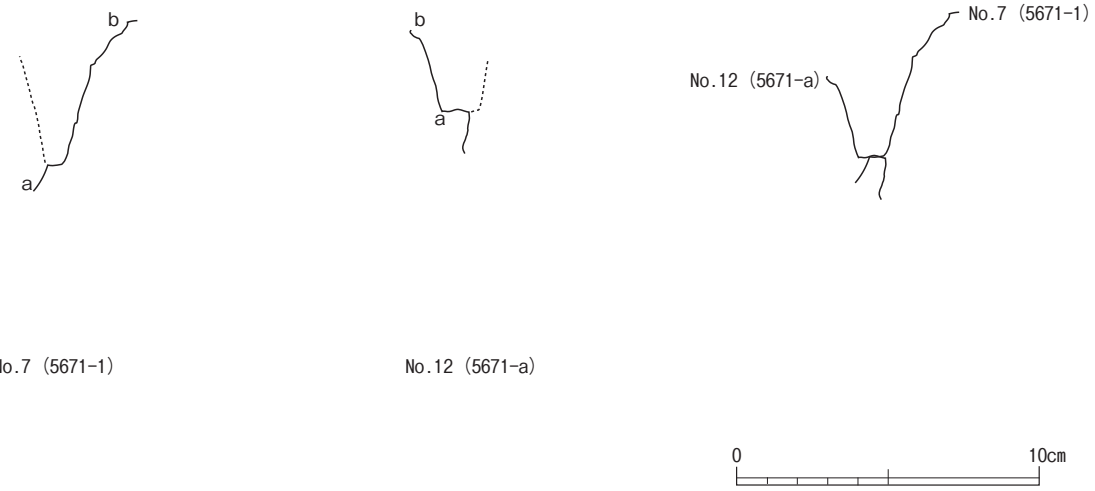


図12　矢穴：山科Ｖ型断面図

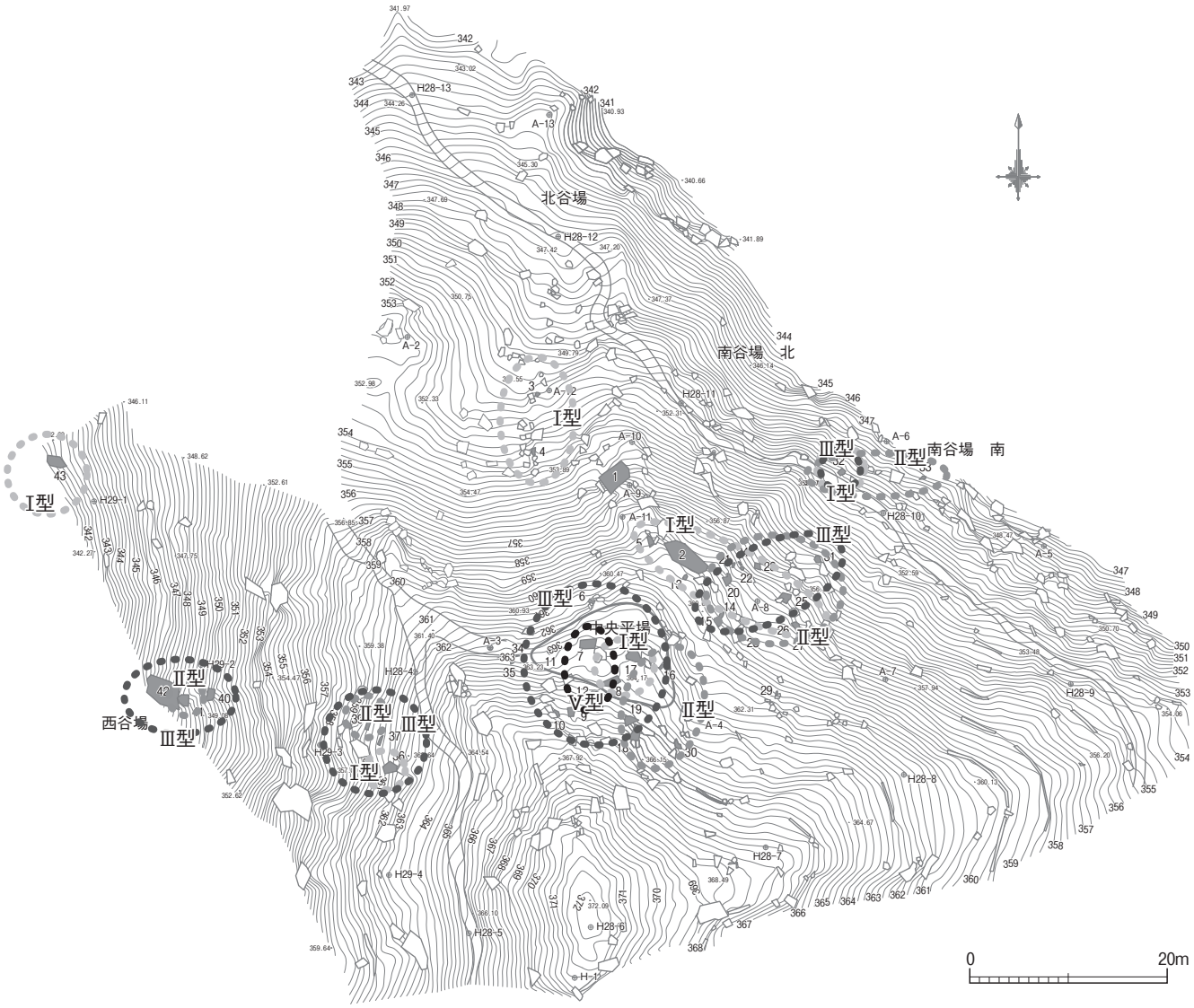
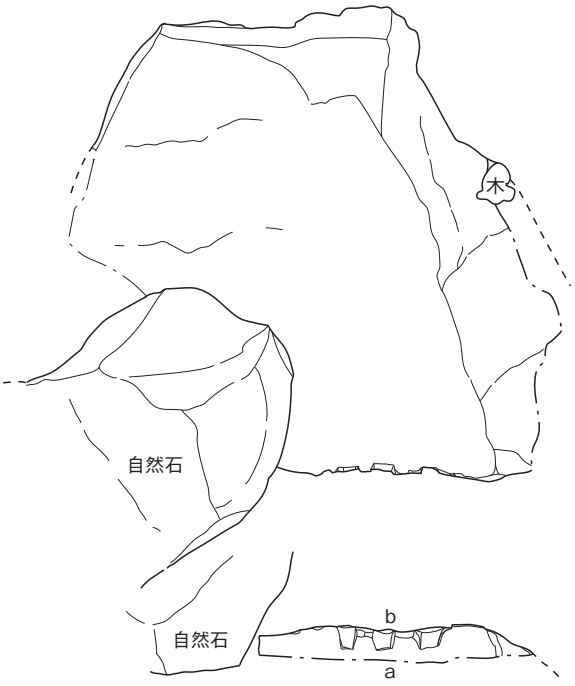
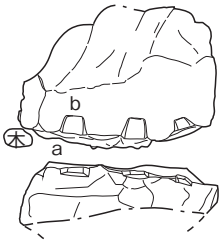


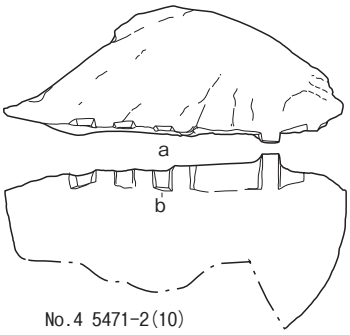
図13　葭ヶ谷Ａ地区の分類からみた刻印・矢穴石の分布



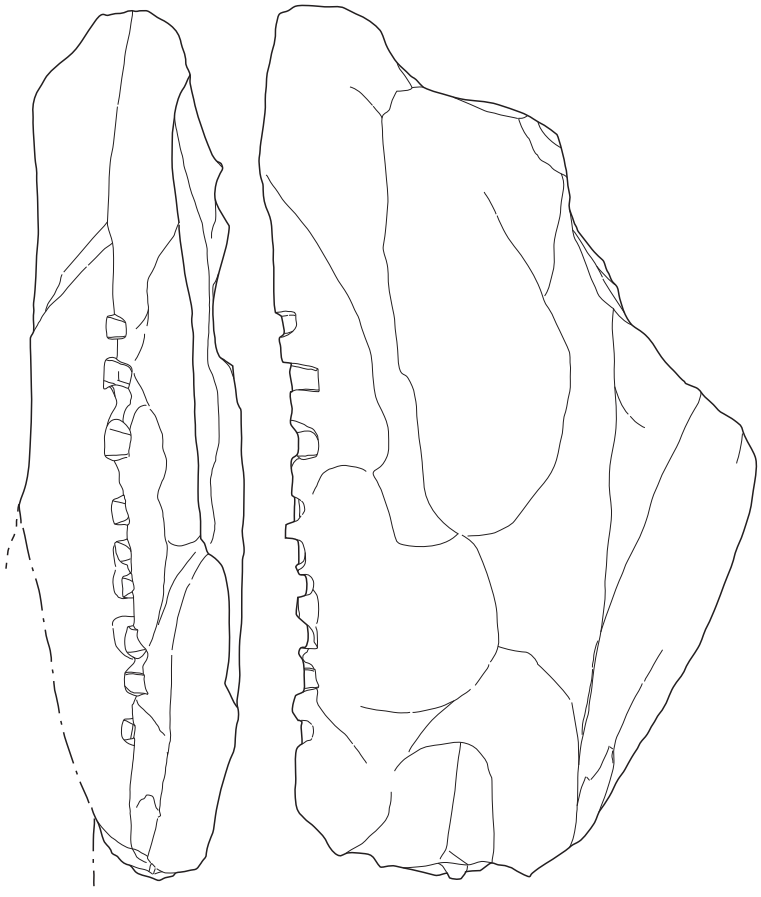
No.7 5671-1(14)



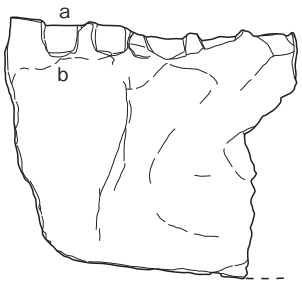
No.3 5371-1(9)



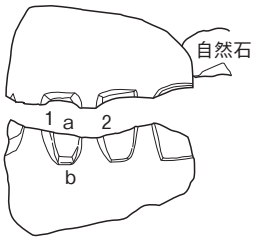
No.4 5471-2(10)



No.5 5470-a(12)

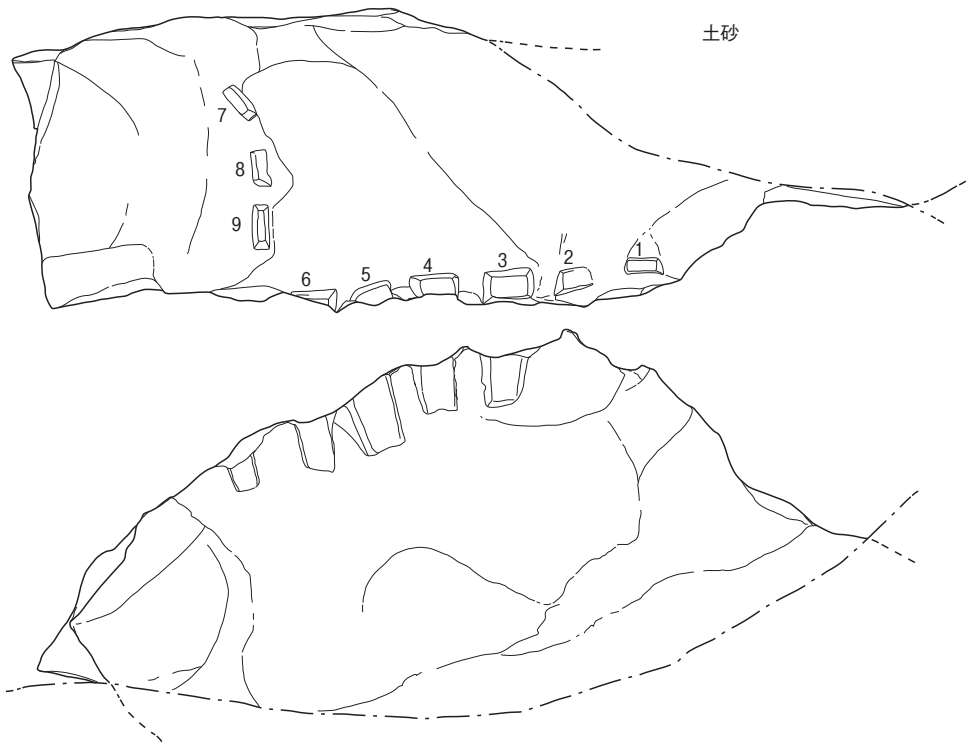


No.6 5571-1(13)

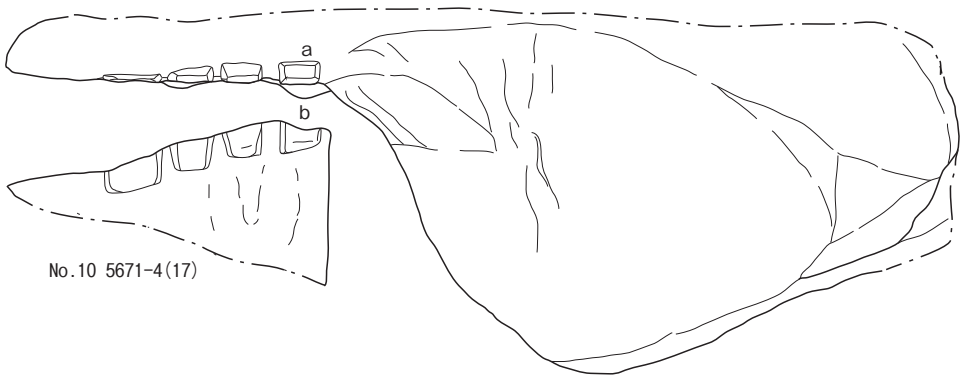


No.11 5671-5(18)2

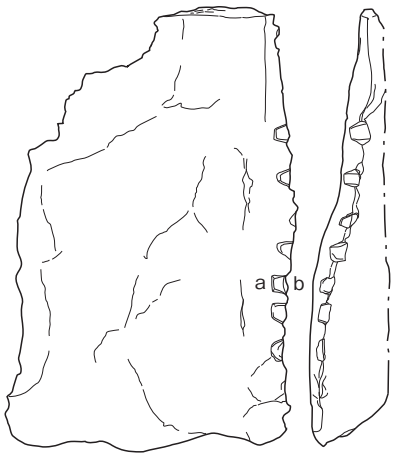
図14　葭ヶ谷A地区　矢穴石（1）



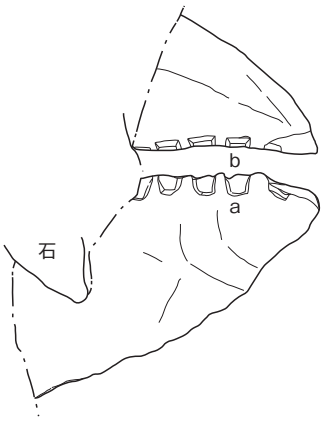
No.8 5671-2(15)



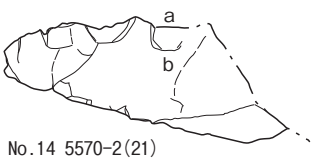
No.10 5671-4(17)



No.12 5671-a(19)



No.13 5570-1(20)



No.14 5570-2(21)

No.16 5670-1(24)

図15　葭ヶ谷A地区　矢穴石（２）

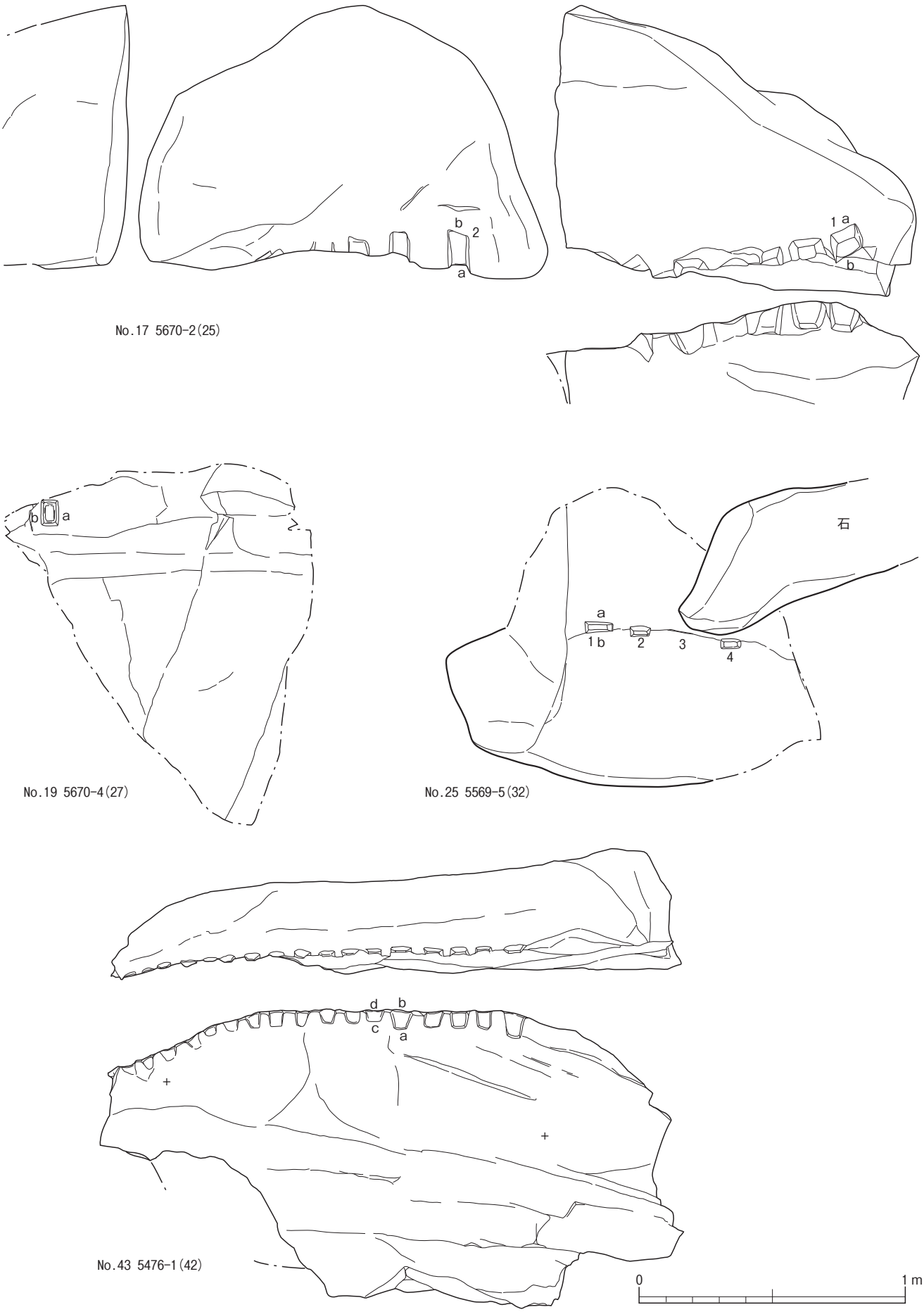
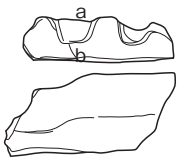
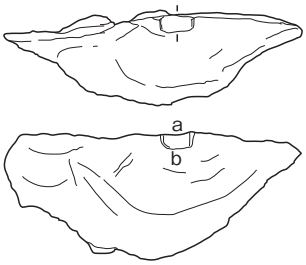


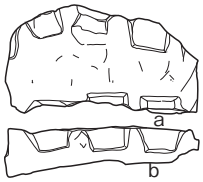
図16　葭ヶ谷A地区　矢穴石（３）



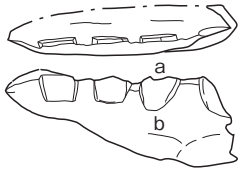
No.22 5569-3(30)



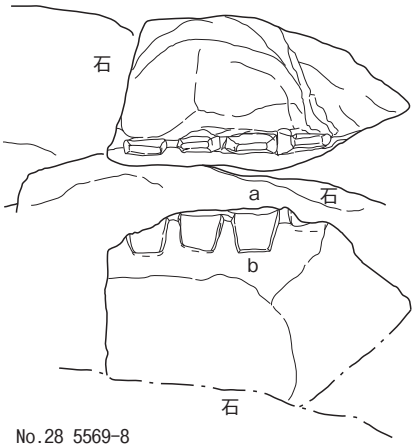
No.24 5569-a(36)



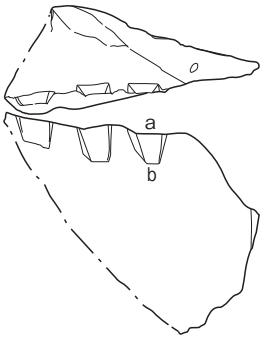
No.31 5568-1(37)



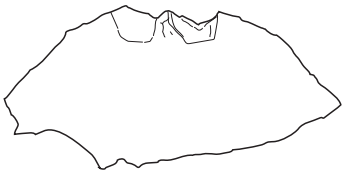
No.35 5672-2(8)



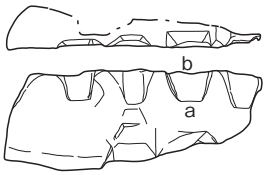
No.28 5569-8



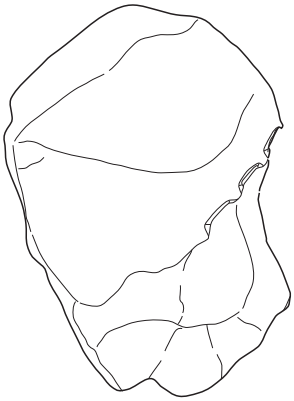
No.33 5467-1(44)

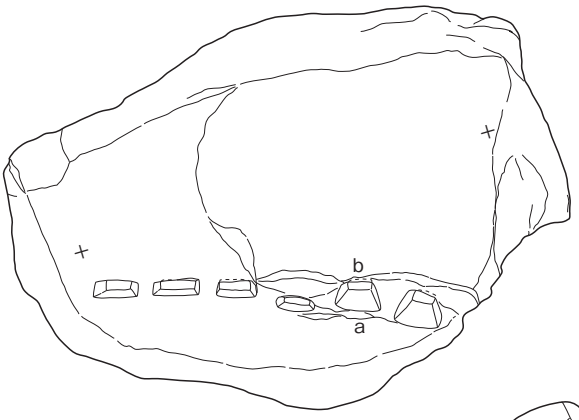


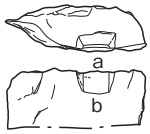
No.34 5672-1(7)



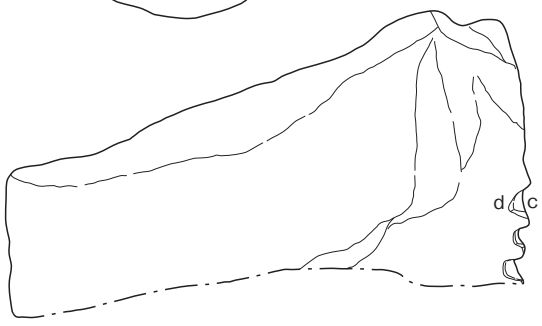
No.37 5673-3(5)



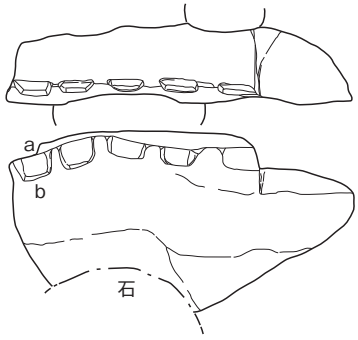




No.38 5673-2(4)



No.36 5773-1(6)



No.39 5673-1(3)

図17　葭ヶ谷A地区　矢穴石（4）

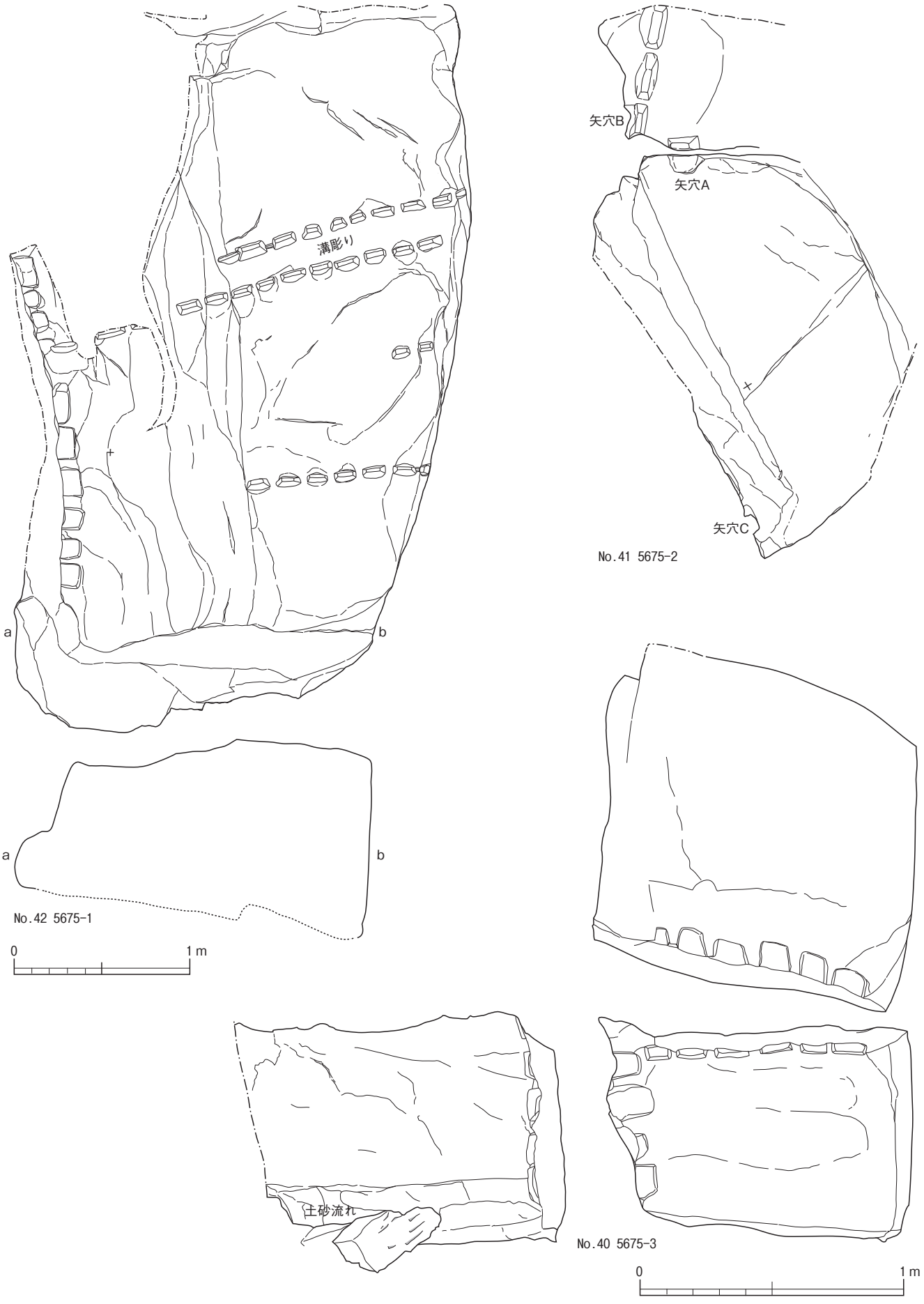


図18　葭ヶ谷A地区　矢穴石（5）

写真10　矢穴石No.33（5467-1）

写真11　矢穴石No.36（5673-4）

写真12　矢穴石No.37（5673-3）

写真13　矢穴石No.38（5673-2）

写真14　矢穴石No.39（5673-1）

写真15　矢穴石No.40（5675-3）

写真16　矢穴石No.41（5675-2）

写真17　矢穴石No.42（5675-1）その1

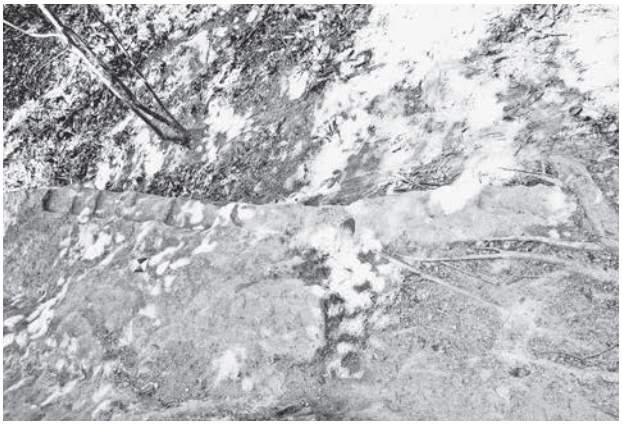


写真18　矢穴石No.42（5675-1）その2

写真19　矢穴石No.42（5675-1）その3

写真20　矢穴石No.43（5476-1）

第４章

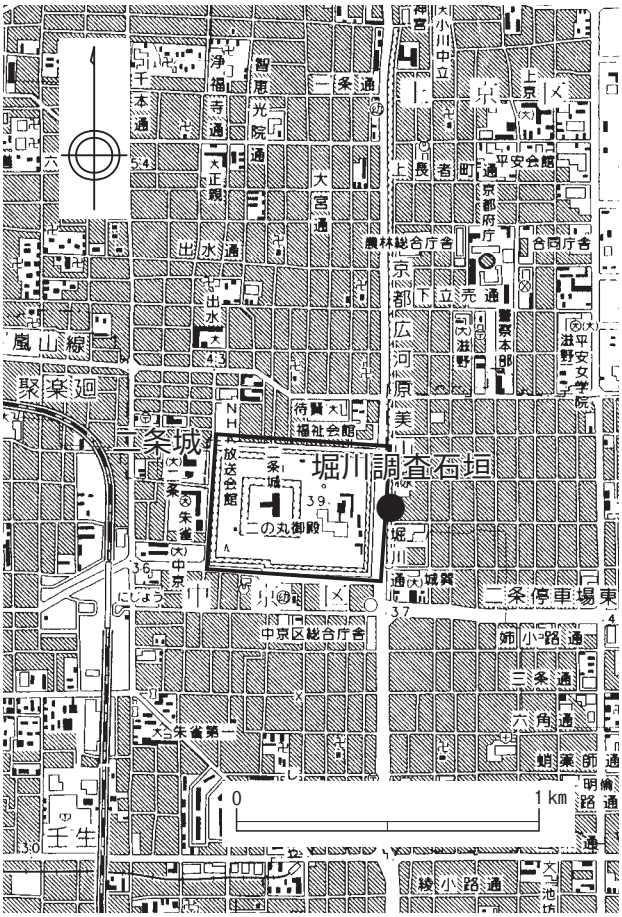
二条城東側堀川石垣の調査（その１）

１．調査の経緯と経過

二条城堀川の西側護岸には竹屋町通から、押小路にかけての約230m間に矢穴や諸大名家の刻印が残る石垣がある。これは、平安京造営時に運河として開削された堀川を、1602～1603（慶長７～８）年の二条城普請に伴い、外堀として改修したものとされる。

二条城は京都市中京区二条通堀川に位置し、慶長７～８年に徳川家康の上洛時の宿所として築城された。1619（元和５）年に御座所・大広間・二の間を増築するなど度々改修がなされている。1624～1626（寛永元～３）年、徳川家光によって大規模な改築工事がなされ、西側の拡張や伏見城の天守閣の移築など現在に近い姿に整備された。

本学では、2015（平成27）年から山科大塚・小山石切丁場の調査活動を実施した。それと共に、同石切丁場から運ばれた石材が確認できる伏見城跡の石垣や御香宮神社境内の刻印石などを調査してきた（垣内2017）。今回の調査地である二条城堀川については、伏見城を移築した際に多くの石材が２次利用された可能性が想定された。そこで、2016（平成28）年から石垣の実測と、刻印・矢穴の形状の記録を行った。


堀川調査石垣
二条城
二の丸御殿
二条停車場東
中京区総合庁舎
農林総合庁舎
京都府庁
合同庁舎
京都府警本部
平安女学院
待賢福祉会館
放送会館
京都市立銅駝美術工芸高等学校
京都市立上京中学校
京都市立小川中学校
京都市立上長者町小学校
平安会館
京都市立朱雀第一小学校
京都市立朱雀第二小学校
京都市立朱雀第三小学校
京都市立朱雀第四小学校
京都市立朱雀第五小学校
京都市立朱雀第六小学校
京都市立朱雀第七小学校
京都市立朱雀第八小学校
京都市立朱雀第九小学校
京都市立朱雀第十小学校
京都市立朱雀第十一小学校
京都市立朱雀第十二小学校
京都市立朱雀第十三小学校
京都市立朱雀第十四小学校
京都市立朱雀第十五小学校
京都市立朱雀第十六小学校
京都市立朱雀第十七小学校
京都市立朱雀第十八小学校
京都市立朱雀第十九小学校
京都市立朱雀第二十小学校
京都市立朱雀第二十一小学校
京都市立朱雀第二十二小学校
京都市立朱雀第二十三小学校
京都市立朱雀第二十四小学校
京都市立朱雀第二十五小学校
京都市立朱雀第二十六小学校
京都市立朱雀第二十七小学校
京都市立朱雀第二十八小学校
京都市立朱雀第二十九小学校
京都市立朱雀第三十小学校
京都市立朱雀第三十一小学校
京都市立朱雀第三十二小学校
京都市立朱雀第三十三小学校
京都市立朱雀第三十四小学校
京都市立朱雀第三十五小学校
京都市立朱雀第三十六小学校
京都市立朱雀第三十七小学校
京都市立朱雀第三十八小学校
京都市立朱雀第三十九小学校
京都市立朱雀第四十小学校
京都市立朱雀第四十一小学校
京都市立朱雀第四十二小学校
京都市立朱雀第四十三小学校
京都市立朱雀第四十四小学校
京都市立朱雀第四十五小学校
京都市立朱雀第四十六小学校
京都市立朱雀第四十七小学校
京都市立朱雀第四十八小学校
京都市立朱雀第四十九小学校
京都市立朱雀第五十小学校
京都市立朱雀第五十一小学校
京都市立朱雀第五十二小学校
京都市立朱雀第五十三小学校
京都市立朱雀第五十四小学校
京都市立朱雀第五十五小学校
京都市立朱雀第五十六小学校
京都市立朱雀第五十七小学校
京都市立朱雀第五十八小学校
京都市立朱雀第五十九小学校
京都市立朱雀第六十小学校
京都市立朱雀第六十一小学校
京都市立朱雀第六十二小学校
京都市立朱雀第六十三小学校
京都市立朱雀第六十四小学校
京都市立朱雀第六十五小学校
京都市立朱雀第六十六小学校
京都市立朱雀第六十七小学校
京都市立朱雀第六十八小学校
京都市立朱雀第六十九小学校
京都市立朱雀第七十小学校
京都市立朱雀第七十一小学校
京都市立朱雀第七十二小学校
京都市立朱雀第七十三小学校
京都市立朱雀第七十四小学校
京都市立朱雀第七十五小学校
京都市立朱雀第七十六小学校
京都市立朱雀第七十七小学校
京都市立朱雀第七十八小学校
京都市立朱雀第七十九小学校
京都市立朱雀第八十小学校
京都市立朱雀第八十一小学校
京都市立朱雀第八十二小学校
京都市立朱雀第八十三小学校
京都市立朱雀第八十四小学校
京都市立朱雀第八十五小学校
京都市立朱雀第八十六小学校
京都市立朱雀第八十七小学校
京都市立朱雀第八十八小学校
京都市立朱雀第八十九小学校
京都市立朱雀第九十小学校
京都市立朱雀第九十一小学校
京都市立朱雀第九十二小学校
京都市立朱雀第九十三小学校
京都市立朱雀第九十四小学校
京都市立朱雀第九十五小学校
京都市立朱雀第九十六小学校
京都市立朱雀第九十七小学校
京都市立朱雀第九十八小学校
京都市立朱雀第九十九小学校
京都市立朱雀第百小学校
京都市立朱雀第百一小学校
京都市立朱雀第百二小学校
京都市立朱雀第百三小学校
京都市立朱雀第百四小学校
京都市立朱雀第百五小学校
京都市立朱雀第百六小学校
京都市立朱雀第百七小学校
京都市立朱雀第百八小学校
京都市立朱雀第百九小学校
京都市立朱雀第百十小学校
京都市立朱雀第百十一小学校
京都市立朱雀第百十二小学校
京都市立朱雀第百十三小学校
京都市立朱雀第百十四小学校
京都市立朱雀第百十五小学校
京都市立朱雀第百十六小学校
京都市立朱雀第百十七小学校
京都市立朱雀第百十八小学校
京都市立朱雀第百十九小学校
京都市立朱雀第百二十小学校
京都市立朱雀第百二十一小学校
京都市立朱雀第百二十二小学校
京都市立朱雀第百二十三小学校
京都市立朱雀第百二十四小学校
京都市立朱雀第百二十五小学校
京都市立朱雀第百二十六小学校
京都市立朱雀第百二十七小学校
京都市立朱雀第百二十八小学校
京都市立朱雀第百二十九小学校
京都市立朱雀第百三十小学校
京都市立朱雀第百三十一小学校
京都市立朱雀第百三十二小学校
京都市立朱雀第百三十三小学校
京都市立朱雀第百三十四小学校
京都市立朱雀第百三十五小学校
京都市立朱雀第百三十六小学校
京都市立朱雀第百三十七小学校
京都市立朱雀第百三十八小学校
京都市立朱雀第百三十九小学校
京都市立朱雀第百四十小学校
京都市立朱雀第百四十一小学校
京都市立朱雀第百四十二小学校
京都市立朱雀第百四十三小学校
京都市立朱雀第百四十四小学校
京都市立朱雀第百四十五小学校
京都市立朱雀第百四十六小学校
京都市立朱雀第百四十七小学校
京都市立朱雀第百四十八小学校
京都市立朱雀第百四十九小学校
京都市立朱雀第百五十小学校
京都市立朱雀第百五十一小学校
京都市立朱雀第百五十二小学校
京都市立朱雀第百五十三小学校
京都市立朱雀第百五十四小学校
京都市立朱雀第百五十五小学校
京都市立朱雀第百五十六小学校
京都市立朱雀第百五十七小学校
京都市立朱雀第百五十八小学校
京都市立朱雀第百五十九小学校
京都市立朱雀第百六十小学校
京都市立朱雀第百六十一小学校
京都市立朱雀第百六十二小学校
京都市立朱雀第百六十三小学校
京都市立朱雀第百六十四小学校
京都市立朱雀第百六十五小学校
京都市立朱雀第百六十六小学校
京都市立朱雀第百六十七小学校
京都市立朱雀第百六十八小学校
京都市立朱雀第百六十九小学校
京都市立朱雀第百七十小学校
京都市立朱雀第百七十一小学校
京都市立朱雀第百七十二小学校
京都市立朱雀第百七十三小学校
京都市立朱雀第百七十四小学校
京都市立朱雀第百七十五小学校
京都市立朱雀第百七十六小学校
京都市立朱雀第百七十七小学校
京都市立朱雀第百七十八小学校
京都市立朱雀第百七十九小学校
京都市立朱雀第百八十小学校
京都市立朱雀第百八十一小学校
京都市立朱雀第百八十二小学校
京都市立朱雀第百八十三小学校
京都市立朱雀第百八十四小学校
京都市立朱雀第百八十五小学校
京都市立朱雀第百八十六小学校
京都市立朱雀第百八十七小学校
京都市立朱雀第百八十八小学校
京都市立朱雀第百八十九小学校
京都市立朱雀第百九十小学校
京都市立朱雀第百九十一小学校
京都市立朱雀第百九十二小学校
京都市立朱雀第百九十三小学校
京都市立朱雀第百九十四小学校
京都市立朱雀第百九十五小学校
京都市立朱雀第百九十六小学校
京都市立朱雀第百九十七小学校
京都市立朱雀第百九十八小学校
京都市立朱雀第百九十九小学校
京都市立朱雀第二百小学校
京都市立朱雀第二百一小学校
京都市立朱雀第二百二小学校
京都市立朱雀第二百三小学校
京都市立朱雀第二百四小学校
京都市立朱雀第二百五小学校
京都市立朱雀第二百六小学校
京都市立朱雀第二百七小学校
京都市立朱雀第二百八小学校
京都市立朱雀第二百九小学校
京都市立朱雀第二百十小学校
京都市立朱雀第二百十一小学校
京都市立朱雀第二百十二小学校
京都市立朱雀第二百十三小学校
京都市立朱雀第二百十四小学校
京都市立朱雀第二百十五小学校
京都市立朱雀第二百十六小学校
京都市立朱雀第二百十七小学校
京都市立朱雀第二百十八小学校
京都市立朱雀第二百十九小学校
京都市立朱雀第二百二十小学校
京都市立朱雀第二百二十一小学校
京都市立朱雀第二百二十二小学校
京都市立朱雀第二百二十三小学校
京都市立朱雀第二百二十四小学校
京都市立朱雀第二百二十五小学校
京都市立朱雀第二百二十六小学校
京都市立朱雀第二百二十七小学校
京都市立朱雀第二百二十八小学校
京都市立朱雀第二百二十九小学校
京都市立朱雀第二百三十小学校
京都市立朱雀第二百三十一小学校
京都市立朱雀第二百三十二小学校
京都市立朱雀第二百三十三小学校
京都市立朱雀第二百三十四小学校
京都市立朱雀第二百三十五小学校
京都市立朱雀第二百三十六小学校
京都市立朱雀第二百三十七小学校
京都市立朱雀第二百三十八小学校
京都市立朱雀第二百三十九小学校
京都市立朱雀第二百四十小学校
京都市立朱雀第二百四十一小学校
京都市立朱雀第二百四十二小学校
京都市立朱雀第二百四十三小学校
京都市立朱雀第二百四十四小学校
京都市立朱雀第二百四十五小学校
京都市立朱雀第二百四十六小学校
京都市立朱雀第二百四十七小学校
京都市立朱雀第二百四十八小学校
京都市立朱雀第二百四十九小学校
京都市立朱雀第二百五十小学校
京都市立朱雀第二百五十一小学校
京都市立朱雀第二百五十二小学校
京都市立朱雀第二百五十三小学校
京都市立朱雀第二百五十四小学校
京都市立朱雀第二百五十五小学校
京都市立朱雀第二百五十六小学校
京都市立朱雀第二百五十七小学校
京都市立朱雀第二百五十八小学校
京都市立朱雀第二百五十九小学校
京都市立朱雀第二百六十小学校
京都市立朱雀第二百六十一小学校
京都市立朱雀第二百六十二小学校
京都市立朱雀第二百六十三小学校
京都市立朱雀第二百六十四小学校
京都市立朱雀第二百六十五小学校
京都市立朱雀第二百六十六小学校
京都市立朱雀第二百六十七小学校
京都市立朱雀第二百六十八小学校
京都市立朱雀第二百六十九小学校
京都市立朱雀第二百七十小学校
京都市立朱雀第二百七十一小学校
京都市立朱雀第二百七十二小学校
京都市立朱雀第二百七十三小学校
京都市立朱雀第二百七十四小学校
京都市立朱雀第二百七十五小学校
京都市立朱雀第二百七十六小学校
京都市立朱雀第二百七十七小学校
京都市立朱雀第二百七十八小学校
京都市立朱雀第二百七十九小学校
京都市立朱雀第二百八十小学校
京都市立朱雀第二百八十一小学校
京都市立朱雀第二百八十二小学校
京都市立朱雀第二百八十三小学校
京都市立朱雀第二百八十四小学校
京都市立朱雀第二百八十五小学校
京都市立朱雀第二百八十六小学校
京都市立朱雀第二百八十七小学校
京都市立朱雀第二百八十八小学校
京都市立朱雀第二百八十九小学校
京都市立朱雀第二百九十小学校
京都市立朱雀第二百九十一小学校
京都市立朱雀第二百九十二小学校
京都市立朱雀第二百九十三小学校
京都市立朱雀第二百九十四小学校
京都市立朱雀第二百九十五小学校
京都市立朱雀第二百九十六小学校
京都市立朱雀第二百九十七小学校
京都市立朱雀第二百九十八小学校
京都市立朱雀第二百九十九小学校
京都市立朱雀第三百小学校
京都市立朱雀第三百一小学校
京都市立朱雀第三百二小学校
京都市立朱雀第三百三小学校
京都市立朱雀第三百四小学校
京都市立朱雀第三百五小学校
京都市立朱雀第三百六小学校
京都市立朱雀第三百七小学校
京都市立朱雀第三百八小学校
京都市立朱雀第三百九小学校
京都市立朱雀第三百十小学校
京都市立朱雀第三百十一小学校
京都市立朱雀第三百十二小学校
京都市立朱雀第三百十三小学校
京都市立朱雀第三百十四小学校
京都市立朱雀第三百十五小学校
京都市立朱雀第三百十六小学校
京都市立朱雀第三百十七小学校
京都市立朱雀第三百十八小学校
京都市立朱雀第三百十九小学校
京都市立朱雀第三百二十小学校
京都市立朱雀第三百二十一小学校
京都市立朱雀第三百二十二小学校
京都市立朱雀第三百二十三小学校
京都市立朱雀第三百二十四小学校
京都市立朱雀第三百二十五小学校
京都市立朱雀第三百二十六小学校
京都市立朱雀第三百二十七小学校
京都市立朱雀第三百二十八小学校
京都市立朱雀第三百二十九小学校
京都市立朱雀第三百三十小学校
京都市立朱雀第三百三十一小学校
京都市立朱雀第三百三十二小学校
京都市立朱雀第三百三十三小学校
京都市立朱雀第三百三十四小学校
京都市立朱雀第三百三十五小学校
京都市立朱雀第三百三十六小学校
京都市立朱雀第三百三十七小学校
京都市立朱雀第三百三十八小学校
京都市立朱雀第三百三十九小学校
京都市立朱雀第三百四十小学校
京都市立朱雀第三百四十一小学校
京都市立朱雀第三百四十二小学校
京都市立朱雀第三百四十三小学校
京都市立朱雀第三百四十四小学校
京都市立朱雀第三百四十五小学校
京都市立朱雀第三百四十六小学校
京都市立朱雀第三百四十七小学校
京都市立朱雀第三百四十八小学校
京都市立朱雀第三百四十九小学校
京都市立朱雀第三百五十小学校
京都市立朱雀第三百五十一小学校
京都市立朱雀第三百五十二小学校
京都市立朱雀第三百五十三小学校
京都市立朱雀第三百五十四小学校
京都市立朱雀第三百五十五小学校
京都市立朱雀第三百五十六小学校
京都市立朱雀第三百五十七小学校
京都市立朱雀第三百五十八小学校
京都市立朱雀第三百五十九小学校
京都市立朱雀第三百六十小学校
京都市立朱雀第三百六十一小学校
京都市立朱雀第三百六十二小学校
京都市立朱雀第三百六十三小学校
京都市立朱雀第三百六十四小学校
京都市立朱雀第三百六十五小学校
京都市立朱雀第三百六十六小学校
京都市立朱雀第三百六十七小学校
京都市立朱雀第三百六十八小学校
京都市立朱雀第三百六十九小学校
京都市立朱雀第三百七十小学校
京都市立朱雀第三百七十一小学校
京都市立朱雀第三百七十二小学校
京都市立朱雀第三百七十三小学校
京都市立朱雀第三百七十四小学校
京都市立朱雀第三百七十五小学校
京都市立朱雀第三百七十六小学校
京都市立朱雀第三百七十七小学校
京都市立朱雀第三百七十八小学校
京都市立朱雀第三百七十九小学校
京都市立朱雀第三百八十小学校
京都市立朱雀第三百八十一小学校
京都市立朱雀第三百八十二小学校
京都市立朱雀第三百八十三小学校
京都市立朱雀第三百八十四小学校
京都市立朱雀第三百八十五小学校
京都市立朱雀第三百八十六小学校
京都市立朱雀第三百八十七小学校
京都市立朱雀第三百八十八小学校
京都市立朱雀第三百八十九小学校
京都市立朱雀第三百九十小学校
京都市立朱雀第三百九十一小学校
京都市立朱雀第三百九十二小学校
京都市立朱雀第三百九十三小学校
京都市立朱雀第三百九十四小学校
京都市立朱雀第三百九十五小学校
京都市立朱雀第三百九十六小学校
京都市立朱雀第三百九十七小学校
京都市立朱雀第三百九十八小学校
京都市立朱雀第三百九十九小学校
京都市立朱雀第四百小学校
京都市立朱雀第四百一小学校
京都市立朱雀第四百二小学校
京都市立朱雀第四百三小学校
京都市立朱雀第四百四小学校
京都市立朱雀第四百五小学校
京都市立朱雀第四百六小学校
京都市立朱雀第四百七小学校
京都市立朱雀第四百八小学校
京都市立朱雀第四百九小学校
京都市立朱雀第四百十小学校
京都市立朱雀第四百十一小学校
京都市立朱雀第四百十二小学校
京都市立朱雀第四百十三小学校
京都市立朱雀第四百十四小学校
京都市立朱雀第四百十五小学校
京都市立朱雀第四百十六小学校
京都市立朱雀第四百十七小学校
京都市立朱雀第四百十八小学校
京都市立朱雀第四百十九小学校
京都市立朱雀第四百二十小学校
京都市立朱雀第四百二十一小学校
京都市立朱雀第四百二十二小学校
京都市立朱雀第四百二十三小学校
京都市立朱雀第四百二十四小学校
京都市立朱雀第四百二十五小学校
京都市立朱雀第四百二十六小学校
京都市立朱雀第四百二十七小学校
京都市立朱雀第四百二十八小学校
京都市立朱雀第四百二十九小学校
京都市立朱雀第四百三十小学校
京都市立朱雀第四百三十一小学校
京都市立朱雀第四百三十二小学校
京都市立朱雀第四百三十三小学校
京都市立朱雀第四百三十四小学校
京都市立朱雀第四百三十五小学校
京都市立朱雀第四百三十六小学校
京都市立朱雀第四百三十七小学校
京都市立朱雀第四百三十八小学校
京都市立朱雀第四百三十九小学校
京都市立朱雀第四百四十小学校
京都市立朱雀第四百四十一小学校
京都市立朱雀第四百四十二小学校
京都市立朱雀第四百四十三小学校
京都市立朱雀第四百四十四小学校
京都市立朱雀第四百四十五小学校
京都市立朱雀第四百四十六小学校
京都市立朱雀第四百四十七小学校
京都市立朱雀第四百四十八小学校
京都市立朱雀第四百四十九小学校
京都市立朱雀第四百五十小学校
京都市立朱雀第四百五十一小学校
京都市立朱雀第四百五十二小学校
京都市立朱雀第四百五十三小学校
京都市立朱雀第四百五十四小学校
京都市立朱雀第四百五十五小学校
京都市立朱雀第四百五十六小学校
京都市立朱雀第四百五十七小学校
京都市立朱雀第四百五十八小学校
京都市立朱雀第四百五十九小学校
京都市立朱雀第四百六十小学校
京都市立朱雀第四百六十一小学校
京都市立朱雀第四百六十二小学校
京都市立朱雀第四百六十三小学校
京都市立朱雀第四百六十四小学校
京都市立朱雀第四百六十五小学校
京都市立朱雀第四百六十六小学校
京都市立朱雀第四百六十七小学校
京都市立朱雀第四百六十八小学校
京都市立朱雀第四百六十九小学校
京都市立朱雀第四百七十小学校
京都市立朱雀第四百七十一小学校
京都市立朱雀第四百七十二小学校
京都市立朱雀第四百七十三小学校
京都市立朱雀第四百七十四小学校
京都市立朱雀第四百七十五小学校
京都市立朱雀第四百七十六小学校
京都市立朱雀第四百七十七小学校
京都市立朱雀第四百七十八小学校
京都市立朱雀第四百七十九小学校
京都市立朱雀第四百八十小学校
京都市立朱雀第四百八十一小学校
京都市立朱雀第四百八十二小学校
京都市立朱雀第四百八十三小学校
京都市立朱雀第四百八十四小学校
京都市立朱雀第四百八十五小学校
京都市立朱雀第四百八十六小学校
京都市立朱雀第四百八十七小学校
京都市立朱雀第四百八十八小学校
京都市立朱雀第四百八十九小学校
京都市立朱雀第四百九十小学校
京都市立朱雀第四百九十一小学校
京都市立朱雀第四百九十二小学校
京都市立朱雀第四百九十三小学校
京都市立朱雀第四百九十四小学校
京都市立朱雀第四百九十五小学校
京都市立朱雀第四百九十六小学校
京都市立朱雀第四百九十七小学校
京都市立朱雀第四百九十八小学校
京都市立朱雀第四百九十九小学校
京都市立朱雀第五百小学校
京都市立朱雀第五百一小学校
京都市立朱雀第五百二小学校
京都市立朱雀第五百三小学校
京都市立朱雀第五百四小学校
京都市立朱雀第五百五小学校
京都市立朱雀第五百六小学校
京都市立朱雀第五百七小学校
京都市立朱雀第五百八小学校
京都市立朱雀第五百九小学校
京都市立朱雀第五百十小学校
京都市立朱雀第五百十一小学校
京都市立朱雀第五百十二小学校
京都市立朱雀第五百十三小学校
京都市立朱雀第五百十四小学校
京都市立朱雀第五百十五小学校
京都市立朱雀第五百十六小学校
京都市立朱雀第五百十七小学校
京都市立朱雀第五百十八小学校
京都市立朱雀第五百十九小学校
京都市立朱雀第五百二十小学校
京都市立朱雀第五百二十一小学校
京都市立朱雀第五百二十二小学校
京都市立朱雀第五百二十三小学校
京都市立朱雀第五百二十四小学校
京都市立朱雀第五百二十五小学校
京都市立朱雀第五百二十六小学校
京都市立朱雀第五百二十七小学校
京都市立朱雀第五百二十八小学校
京都市立朱雀第五百二十九小学校
京都市立朱雀第五百三十小学校
京都市立朱雀第五百三十一小学校
京都市立朱雀第五百三十二小学校
京都市立朱雀第五百三十三小学校
京都市立朱雀第五百三十四小学校
京都市立朱雀第五百三十五小学校
京都市立朱雀第五百三十六小学校
京都市立朱雀第五百三十七小学校
京都市立朱雀第五百三十八小学校
京都市立朱雀第五百三十九小学校
京都市立朱雀第五百四十小学校
京都市立朱雀第五百四十一小学校
京都市立朱雀第五百四十二小学校
京都市立朱雀第五百四十三小学校
京都市立朱雀第五百四十四小学校
京都市立朱雀第五百四十五小学校
京都市立朱雀第五百四十六小学校
京都市立朱雀第五百四十七小学校
京都市立朱雀第五百四十八小学校
京都市立朱雀第五百四十九小学校
京都市立朱雀第五百五十小学校
京都市立朱雀第五百五十一小学校
京都市立朱雀第五百五十二小学校
京都市立朱雀第五百五十三小学校
京都市立朱雀第五百五十四小学校
京都市立朱雀第五百五十五小学校
京都市立朱雀第五百五十六小学校
京都市立朱雀第五百五十七小学校
京都市立朱雀第五百五十八小学校
京都市立朱雀第五百五十九小学校
京都市立朱雀第五百六十小学校
京都市立朱雀第五百六十一小学校
京都市立朱雀第五百六十二小学校
京都市立朱雀第五百六十三小学校
京都市立朱雀第五百六十四小学校
京都市立朱雀第五百六十五小学校
京都市立朱雀第五百六十六小学校
京都市立朱雀第五百六十七小学校
京都市立朱雀第五百六十八小学校
京都市立朱雀第五百六十九小学校
京都市立朱雀第五百七十小学校
京都市立朱雀第五百七十一小学校
京都市立朱雀第五百七十二小学校
京都市立朱雀第五百七十三小学校
京都市立朱雀第五百七十四小学校
京都市立朱雀第五百七十五小学校
京都市立朱雀第五百七十六小学校
京都市立朱雀第五百七十七小学校
京都市立朱雀第五百七十八小学校
京都市立朱雀第五百七十九小学校
京都市立朱雀第五百八十小学校
京都市立朱雀第五百八十一小学校
京都市立朱雀第五百八十二小学校
京都市立朱雀第五百八十三小学校
京都市立朱雀第五百八十四小学校
京都市立朱雀第五百八十五小学校
京都市立朱雀第五百八十六小学校
京都市立朱雀第五百八十七小学校
京都市立朱雀第五百八十八小学校
京都市立朱雀第五百八十九小学校
京都市立朱雀第五百九十小学校
京都市立朱雀第五百九十一小学校
京都市立朱雀第五百九十二小学校
京都市立朱雀第五百九十三小学校
京都市立朱雀第五百九十四小学校
京都市立朱雀第五百九十五小学校
京都市立朱雀第五百九十六小学校
京都市立朱雀第五百九十七小学校
京都市立朱雀第五百九十八小学校
京都市立朱雀第五百九十九小学校
京都市立朱雀第六百小学校
京都市立朱雀第六百一小学校
京都市立朱雀第六百二小学校
京都市立朱雀第六百三小学校
京都市立朱雀第六百四小学校
京都市立朱雀第六百五小学校
京都市立朱雀第六百六小学校
京都市立朱雀第六百七小学校
京都市立朱雀第六百八小学校
京都市立朱雀第六百九小学校
京都市立朱雀第六百十小学校
京都市立朱雀第六百十一小学校
京都市立朱雀第六百十二小学校
京都市立朱雀第六百十三小学校
京都市立朱雀第六百十四小学校
京都市立朱雀第六百十五小学校
京都市立朱雀第六百十六小学校
京都市立朱雀第六百十七小学校
京都市立朱雀第六百十八小学校
京都市立朱雀第六百十九小学校
京都市立朱雀第六百二十小学校
京都市立朱雀第六百二十一小学校
京都市立朱雀第六百二十二小学校
京都市立朱雀第六百二十三小学校
京都市立朱雀第六百二十四小学校
京都市立朱雀第六百二十五小学校
京都市立朱雀第六百二十六小学校
京都市立朱雀第六百二十七小学校
京都市立朱雀第六百二十八小学校
京都市立朱雀第六百二十九小学校
京都市立朱雀第六百三十小学校
京都市立朱雀第六百三十一小学校
京都市立朱雀第六百三十二小学校
京都市立朱雀第六百三十三小学校
京都市立朱雀第六百三十四小学校
京都市立朱雀第六百三十五小学校
京都市立朱雀第六百三十六小学校
京都市立朱雀第六百三十七小学校
京都市立朱雀第六百三十八小学校
京都市立朱雀第六百三十九小学校
京都市立朱雀第六百四十小学校
京都市立朱雀第六百四十一小学校
京都市立朱雀第六百四十二小学校
京都市立朱雀第六百四十三小学校
京都市立朱雀第六百四十四小学校
京都市立朱雀第六百四十五小学校
京都市立朱雀第六百四十六小学校
京都市立朱雀第六百四十七小学校
京都市立朱雀第六百四十八小学校
京都市立朱雀第六百四十九小学校
京都市立朱雀第六百五十小学校
京都市立朱雀第六百五十一小学校
京都市立朱雀第六百五十二小学校
京都市立朱雀第六百五十三小学校
京都市立朱雀第六百五十四小学校
京都市立朱雀第六百五十五小学校
京都市立朱雀第六百五十六小学校
京都市立朱雀第六百五十七小学校
京都市立朱雀第六百五十八小学校
京都市立朱雀第六百五十九小学校
京都市立朱雀第六百六十小学校
京都市立朱雀第六百六十一小学校
京都市立朱雀第六百六十二小学校
京都市立朱雀第六百六十三小学校
京都市立朱雀第六百六十四小学校
京都市立朱雀第六百六十五小学校
京都市立朱雀第六百六十六小学校
京都市立朱雀第六百六十七小学校
京都市立朱雀第六百六十八小学校
京都市立朱雀第六百六十九小学校
京都市立朱雀第六百七十小学校
京都市立朱雀第六百七十一小学校
京都市立朱雀第六百七十二小学校
京都市立朱雀第六百七十三小学校
京都市立朱雀第六百七十四小学校
京都市立朱雀第六百七十五小学校
京都市立朱雀第六百七十六小学校
京都市立朱雀第六百七十七小学校
京都市立朱雀第六百七十八小学校
京都市立朱雀第六百七十九小学校
京都市立朱雀第六百八十小学校
京都市立朱雀第六百八十一小学校
京都市立朱雀第六百八十二小学校
京都市立朱雀第六百八十三小学校
京都市立朱雀第六百八十四小学校
京都市立朱雀第六百八十五小学校
京都市立朱雀第六百八十六小学校
京都市立朱雀第六百八十七小学校
京都市立朱雀第六百八十八小学校
京都市立朱雀第六百八十九小学校
京都市立朱雀第六百九十小学校
京都市立朱雀第六百九十一小学校
京都市立朱雀第六百九十二小学校
京都市立朱雀第六百九十三小学校
京都市立朱雀第六百九十四小学校
京都市立朱雀第六百九十五小学校
京都市立朱雀第六百九十六小学校
京都市立朱雀第六百九十七小学校
京都市立朱雀第六百九十八小学校
京都市立朱雀第六百九十九小学校
京都市立朱雀第七百小学校
京都市立朱雀第七百一小学校
京都市立朱雀第七百二小学校
京都市立朱雀第七百三小学校
京都市立朱雀第七百四小学校
京都市立朱雀第七百五小学校
京都市立朱雀第七百六小学校
京都市立朱雀第七百七小学校
京都市立朱雀第七百八小学校
京都市立朱雀第七百九小学校
京都市立朱雀第七百十小学校
京都市立朱雀第七百十一小学校
京都市立朱雀第七百十二小学校
京都市立朱雀第七百十三小学校
京都市立朱雀第七百十四小学校
京都市立朱雀第七百十五小学校
京都市立朱雀第七百十六小学校
京都市立朱雀第七百十七小学校
京都市立朱雀第七百十八小学校
京都市立朱雀第七百十九小学校
京都市立朱雀第七百二十小学校
京都市立朱雀第七百二十一小学校
京都市立朱雀第七百二十二小学校
京都市立朱雀第七百二十三小学校
京都市立朱雀第七百二十四小学校
京都市立朱雀第七百二十五小学校
京都市立朱雀第七百二十六小学校
京都市立朱雀第七百二十七小学校
京都市立朱雀第七百二十八小学校
京都市立朱雀第七百二十九小学校
京都市立朱雀第七百三十小学校
京都市立朱雀第七百三十一小学校
京都市立朱雀第七百三十二小学校
京都市立朱雀第七百三十三小学校
京都市立朱雀第七百三十四小学校
京都市立朱雀第七百三十五小学校
京都市立朱雀第七百三十六小学校
京都市立朱雀第七百三十七小学校
京都市立朱雀第七百三十八小学校
京都市立朱雀第七百三十九小学校
京都市立朱雀第七百四十小学校
京都市立朱雀第七百四十一小学校
京都市立朱雀第七百四十二小学校
京都市立朱雀第七百四十三小学校
京都市立朱雀第七百四十四小学校
京都市立朱雀第七百四十五小学校
京都市立朱雀第七百四十六小学校
京都市立朱雀第七百四十七小学校
京都市立朱雀第七百四十八小学校
京都市立朱雀第七百四十九小学校
京都市立朱雀第七百五十小学校
京都市立朱雀第七百五十一小学校
京都市立朱雀第七百五十二小学校
京都市立朱雀第七百五十三小学校
京都市立朱雀第七百五十四小学校
京都市立朱雀第七百五十五小学校
京都市立朱雀第七百五十六小学校
京都市立朱雀第七百五十七小学校
京都市立朱雀第七百五十八小学校
京都市立朱雀第七百五十九小学校
京都市立朱雀第七百六十小学校
京都市立朱雀第七百六十一小学校
京都市立朱雀第七百六十二小学校
京都市立朱雀第七百六十三小学校
京都市立朱雀第七百六十四小学校
京都市立朱雀第七百六十五小学校
京都市立朱雀第七百六十六小学校
京都市立朱雀第七百六十七小学校
京都市立朱雀第七百六十八小学校
京都市立朱雀第七百六十九小学校
京都市立朱雀第七百七十小学校
京都市立朱雀第七百七十一小学校
京都市立朱雀第七百七十二小学校
京都市立朱雀第七百七十三小学校
京都市立朱雀第七百七十四小学校
京都市立朱雀第七百七十五小学校
京都市立朱雀第七百七十六小学校
京都市立朱雀第七百七十七小学校
京都市立朱雀第七百七十八小学校
京都市立朱雀第七百七十九小学校
京都市立朱雀第七百八十小学校
京都市立朱雀第七百八十一小学校
京都市立朱雀第七百八十二小学校
京都市立朱雀第七百八十三小学校
京都市立朱雀第七百八十四小学校
京都市立朱雀第七百八十五小学校
京都市立朱雀第七百八十六小学校
京都市立朱雀第七百八十七小学校
京都市立朱雀第七百八十八小学校
京都市立朱雀第七百八十九小学校
京都市立朱雀第七百九十小学校
京都市立朱雀第七百九十一小学校
京都市立朱雀第七百九十二小学校
京都市立朱雀第七百九十三小学校
京都市立朱雀第七百九十四小学校
京都市立朱雀第七百九十五小学校
京都市立朱雀第七百九十六小学校
京都市立朱雀第七百九十七小学校
京都市立朱雀第七百九十八小学校
京都市立朱雀第七百九十九小学校
京都市立朱雀第八百小学校
京都市立朱雀第八百一小学校
京都市立朱雀第八百二小学校
京都市立朱雀第八百三小学校
京都市立朱雀第八百四小学校
京都市立朱雀第八百五小学校
京都市立朱雀第八百六小学校
京都市立朱雀第八百七小学校
京都市立朱雀第八百八小学校
京都市立朱雀第八百九小学校
京都市立朱雀第八百十小学校
京都市立朱雀第八百十一小学校
京都市立朱雀第八百十二小学校
京都市立朱雀第八百十三小学校
京都市立朱雀第八百十四小学校
京都市立朱雀第八百十五小学校
京都市立朱雀第八百十六小学校
京都市立朱雀第八百十七小学校
京都市立朱雀第八百十八小学校
京都市立朱雀第八百十九小学校
京都市立朱雀第八百二十小学校
京都市立朱雀第八百二十一小学校
京都市立朱雀第八百二十二小学校
京都市立朱雀第八百二十三小学校
京都市立朱雀第八百二十四小学校
京都市立朱雀第八百二十五小学校
京都市立朱雀第八百二十六小学校
京都市立朱雀第八百二十七小学校
京都市立朱雀第八百二十八小学校
京都市立朱雀第八百二十九小学校
京都市立朱雀第八百三十小学校
京都市立朱雀第八百三十一小学校
京都市立朱雀第八百三十二小学校
京都市立朱雀第八百三十三小学校
京都市立朱雀第八百三十四小学校
京都市立朱雀第八百三十五小学校
京都市立朱雀第八百三十六小学校
京都市立朱雀第八百三十七小学校
京都市立朱雀第八百三十八小学校
京都市立朱雀第八百三十九小学校
京都市立朱雀第八百四十小学校
京都市立朱雀第八百四十一小学校
京都市立朱雀第八百四十二小学校
京都市立朱雀第八百四十三小学校
京都市立朱雀第八百四十四小学校
京都市立朱雀第八百四十五小学校
京都市立朱雀第八百四十六小学校
京都市立朱雀第八百四十七小学校
京都市立朱雀第八百四十八小学校
京都市立朱雀第八百四十九小学校
京都市立朱雀第八百五十小学校
京都市立朱雀第八百五十一小学校
京都市立朱雀第八百五十二小学校
京都市立朱雀第八百五十三小学校
京都市立朱雀第八百五十四小学校
京都市立朱雀第八百五十五小学校
京都市立朱雀第八百五十六小学校
京都市立朱雀第八百五十七小学校
京都市立朱雀第八百五十八小学校
京都市立朱雀第八百五十九小学校
京都市立朱雀第八百六十小学校
京都市立朱雀第八百六十一小学校
京都市立朱雀第八百六十二小学校
京都市立朱雀第八百六十三小学校
京都市立朱雀第八百六十四小学校
京都市立朱雀第八百六十五小学校
京都市立朱雀第八百六十六小学校
京都市立朱雀第八百六十七小学校
京都市立朱雀第八百六十八小学校
京都市立朱雀第八百六十九小学校
京都市立朱雀第八百七十小学校
京都市立朱雀第八百七十一小学校
京都市立朱雀第八百七十二小学校
京都市立朱雀第八百七十三小学校
京都市立朱雀第八百七十四小学校
京都市立朱雀第八百七十五小学校
京都市立朱雀第八百七十六小学校
京都市立朱雀第八百七十七小学校
京都市立朱雀第八百七十八小学校
京都市立朱雀第八百七十九小学校
京都市立朱雀第八百八十小学校
京都市立朱雀第八百八十一小学校
京都市立朱雀第八百八十二小学校
京都市立朱雀第八百八十三小学校
京都市立朱雀第八百八十四小学校
京都市立朱雀第八百八十五小学校
京都市立朱雀第八百八十六小学校
京都市立朱雀第八百八十七小学校
京都市立

氏の分析によれば、石垣には山科の花崗斑岩や石英斑岩を含む多種多様な石材が確認されている（奥田2017）。

石垣の構造は、基本的に石材を３段に積み上げて構築し、水平方向の目地が通る部分と、小形の切石で積まれた部分、土管暗渠付近の新しく積み直された部分がある。Ｎ地区においては、様子の異なる石積みでおよそ３ブロックに分かれる。北側のＮ１～５区の下段には自然石や二分割された石材を主体とした石材で石垣が構築されている。その上段は、特にＮ２～４区に限って、30～50cm程度に加工された切石が地面に対して水平ではなく、下段の石材に合わせて積まれている。一方、南側の夷川橋付近の石垣は最も残りがよく、100cm×70cm前後の石材や130cm×50cm前後の石材を布積みした状況が見られる。また、両石垣の間には２ヶ所の土管暗渠があり、その付近は石積みが乱れている。

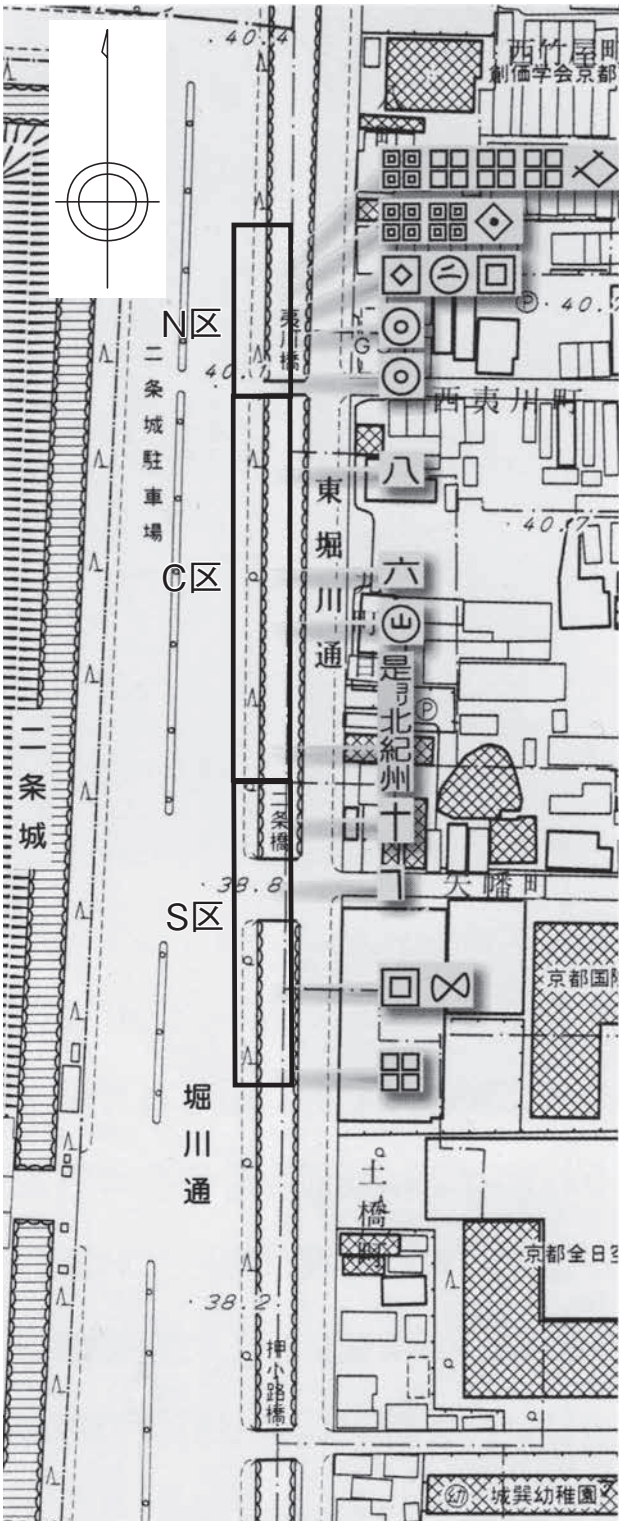


図21　二条城東側堀川石垣調査区域設定図（京都市埋文2010より加筆）

現在、Ｎ地区には12個の刻印が確認でき、Ｎ２～３区には平四つ目結刻印や四角刻印、Ｎ４～５区には丸刻印、四角に菱形刻印、Ｎ５区と７区には二重丸刻印が含まれ、刻印はそれぞれの石材調達を担当した大名家の印とされ、平四つ目刻印は山科小山・大塚石切丁場に見られるものと類似している。

矢穴は、Ｎ１区に江戸時代中期以降の小形のものも見られるが、多くは豊臣期から近世初期のものである。矢底の横断面形状は、Ｖ字形に近い形状やコの字形状のものが混在している。

以上のように、二条城堀川の石垣は、直方体に加工された規格石材が石垣に利用されていることや、元和・寛永段階の矢穴が目立つことから、石垣の大部分は1625～1626（寛永元～３）年の改修に伴ったものの可能性が高い。

４．ま と め

今回の調査により、二条城堀川のＮ地区では、少なくとも３回以上の改修が確認された。夷川橋付近の石垣は寛永年間の可能性が高い部分も残存していた。また、その石材には古い形状の矢穴も確認することができ、慶長段階の堀川の石垣石材、あるいは伏見城の石垣石材を転用したものと考えられる。

次年度は、Ｃ地区やＳ地区の石垣について整理を進めていき、二条城堀川と山科大塚・小山石切丁場との関係も検討していきたい。

参考文献

（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　2010「是ヨリ北紀州」『リーフレット京都』No.153

奥田　尚　2016「二条城堀川沿いの石垣材について（予報）」『京都橘大学歴史遺産調査報告2016』京都橘大学文学部

垣内彩那　2017「御香宮神社内刻印石について」『京都橘大学歴史遺産調査報告2016』京都橘大学文学部

石崎善久　2014「二条城跡」『京都府中世城館調査報告書』第３冊　京都府教育委員会

図22　二条城東側堀川石垣N区（1）

図23　二条城東側堀川石垣N区（２）

図24　二条城東側堀川石垣N区（３）

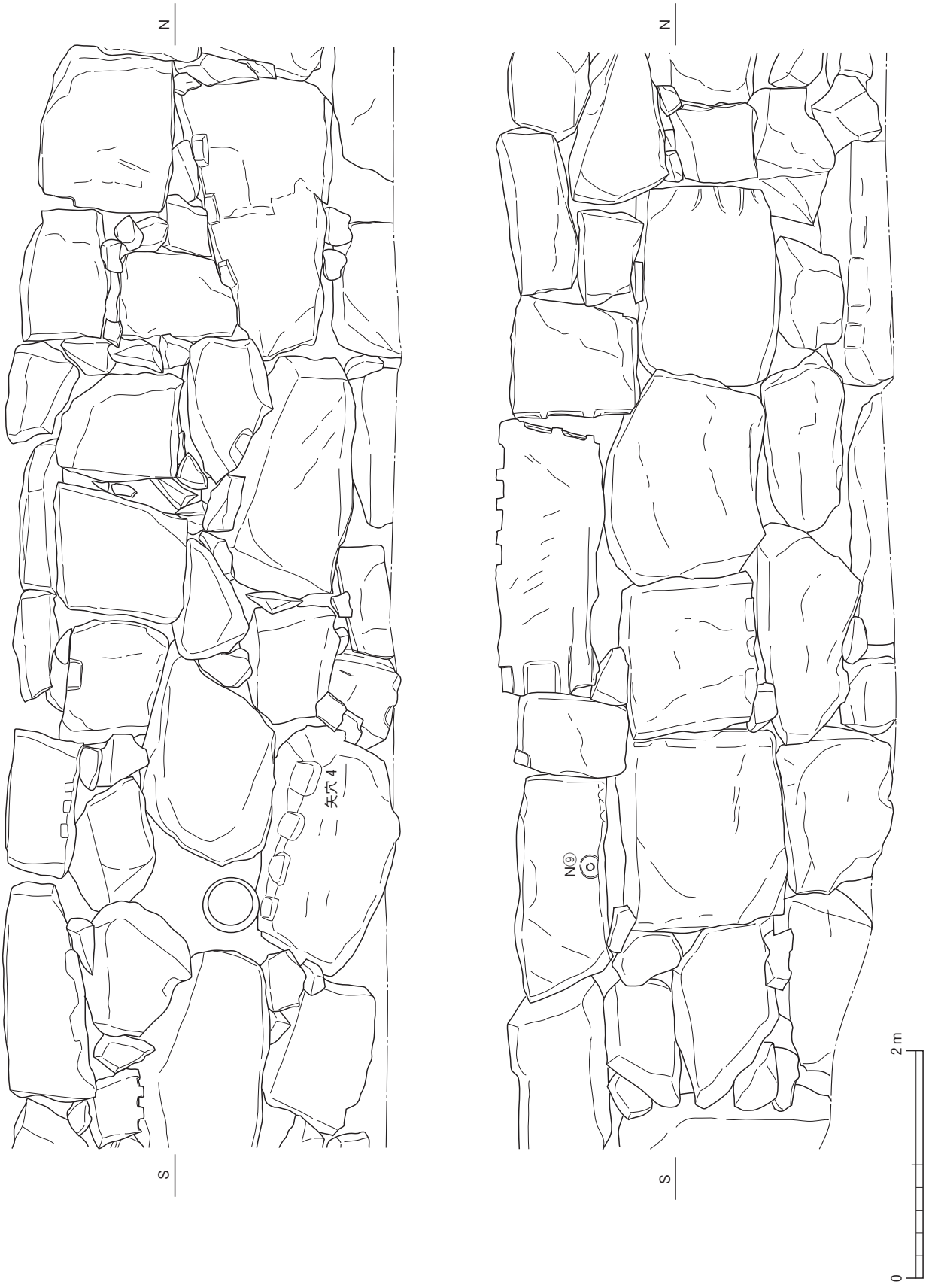


図25　二条城東側堀川石垣N区（4）

図26　二条城東側堀川石垣N区（5）

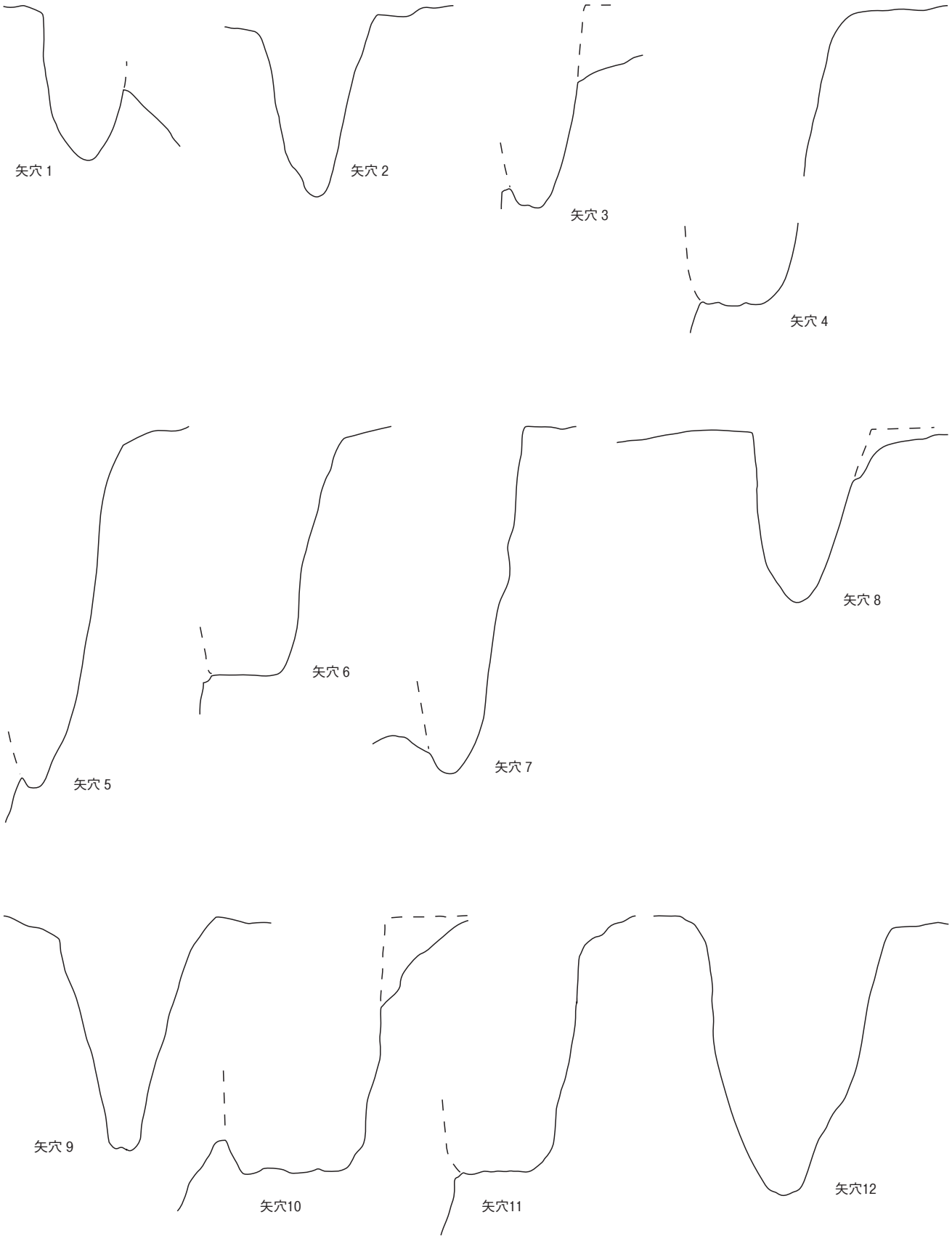


図27　二条城堀川石垣矢穴断面図

表２　二条城東側堀川石垣刻印一覧表

調査区	刻印番号	刻印名	刻印の法量（縦×横cm）	石材の法量（縦×横cm）	備　　考
Ｎ２	Ｎ①	平四つ目結	13×13	40×74	
	Ｎ②	平四つ目結	16×16	60×65	
	Ｎ③-ａ	平四つ目結	12×12	40×85	同石併刻
	Ｎ③-ｂ	四角	12×12		
	Ｎ④	平四つ目結	12×12	40×55	
	Ｎ⑫	四角	10×10	40×70	
Ｎ３	Ｎ⑤	平四つ目結	16×16	40×70	
	Ｎ⑥	二重四角	14×14	50×70	
	Ｎ⑪	平四つ目結	14×14	40×30	
	Ｎ⑬	刻印？		60×80	摩滅のため判別不可
Ｎ４	Ｎ⑭	刻印？		50×60	摩滅のため判別不可
Ｎ４～５	Ｎ⑦-ａ	四角に菱形	10×10	45×70	同石併刻
	Ｎ⑦-ｂ	丸	径９		
Ｎ５	Ｎ⑩	平四つ目結	10×10	50×40	半分摩滅
Ｎ６	Ｎ⑧	二重丸	径15	50×90	
Ｎ８	Ｎ⑨	二重丸	径12	40×105	

写真21　堀川石垣C21-２

写真22　堀川石垣C21-１

写真23　堀川石垣C21-１

写真24　堀川石垣C20-０

写真25　堀川石垣C20-０

写真26　堀川石垣C20-０

写真27　堀川石垣C19-0

写真28　堀川石垣C19-0

写真29　堀川石垣C18-0

写真30　堀川石垣C17-0

写真31　堀川石垣C17-0

写真32　堀川石垣C16-2

写真33　堀川石垣C16-1

写真34　堀川石垣C15-2

写真35　堀川石垣C15-1、C15-2

写真36　堀川石垣C15-1、C14-2

写真37　堀川石垣C14-２、C14-１

写真38　堀川石垣C14-１

写真39　堀川石垣C13-２

写真40　堀川石垣C13-１

写真41　堀川石垣C13-１

写真42　堀川石垣C12-２

写真43　堀川石垣C12-１

写真44　堀川石垣C11-２

写真45　堀川石垣C11-１

写真46　堀川石垣C11-１

写真47　堀川石垣C10－2

写真48　堀川石垣C10－1

写真49　堀川石垣C 9－2

写真50　堀川石垣C 9－1

写真51　堀川石垣C 9－1

写真52　堀川石垣C 8－2

写真53　堀川石垣C 8－1

写真54　堀川石垣C 8－1、C 7－2

写真55　堀川石垣C 7－1

写真56　堀川石垣C 6－2

写真57　堀川石垣C 6－1

写真58　堀川石垣C 5－2

写真59　堀川石垣C 5－1

写真60　堀川石垣C 4－2

写真61　堀川石垣C 4－1

写真62　堀川石垣C 3－2

写真63　堀川石垣C 3－1

写真64　堀川石垣C 2－2

写真65　堀川石垣C 2－1

写真66　堀川石垣C 1－2

写真67　堀川石垣C 1 - 1

写真68　堀川石垣C 1 - 1

写真69　堀川石垣N 8 - 3

写真70　堀川石垣N 8 - 2

写真71　堀川石垣N 8 - 2

写真72　堀川石垣N 8 - 1

写真73　堀川石垣N 8 - 1

写真74　堀川石垣N 7 - 2

写真75　堀川石垣N 7 - 1

写真76　堀川石垣N 6 - 2

写真77　堀川石垣N 6 – 1

写真78　堀川石垣N 6 – 1

写真79　堀川石垣N 6 – 1

写真80　堀川石垣N 5 – 2

写真81　堀川石垣N 5 – 1

写真82　堀川石垣N 5 – 1

写真83　堀川石垣N 5 – 1

写真84　堀川石垣N 4 – 0

写真85　堀川石垣N 3 – 2

写真86　堀川石垣N 3 – 1

写真87　堀川石垣N 3 - 1

写真88　堀川石垣N 2 - 2

写真89　堀川石垣N 2 - 1

写真90　堀川石垣N 1 - 2

写真91　堀川石垣N 1 - 1

写真92　堀川石垣N 1 - 1

写真93　堀川石垣S 5 - 1 （矢穴15）

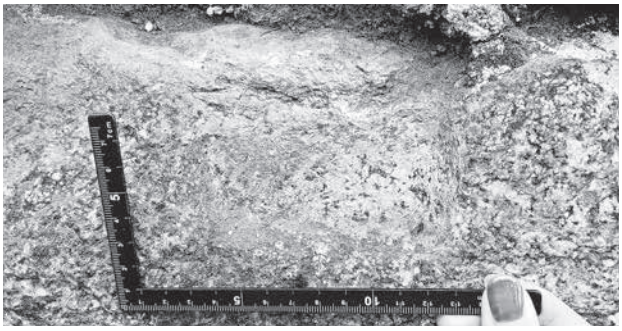


写真94　堀川石垣S 5 - 1 （矢穴15）

写真95　堀川石垣S 5 - 1 （矢穴14）

写真96　堀川石垣S 5 - 1 （矢穴14）

写真97　堀川石垣S 3 - 1 （矢穴13）

写真98　堀川石垣S 3 - 1 （矢穴13）

写真99　堀川石垣C12- 1 （矢穴12）

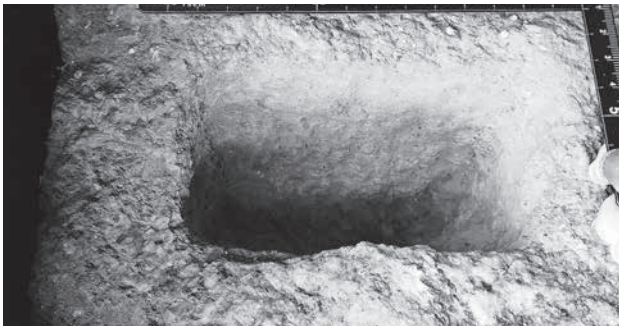


写真100　堀川石垣C12- 1 （矢穴12）

写真101　堀川石垣C12- 1 （矢穴11）

写真102　堀川石垣C12- 1 （矢穴11）

写真103　堀川石垣C 7 - 2 （矢穴10）

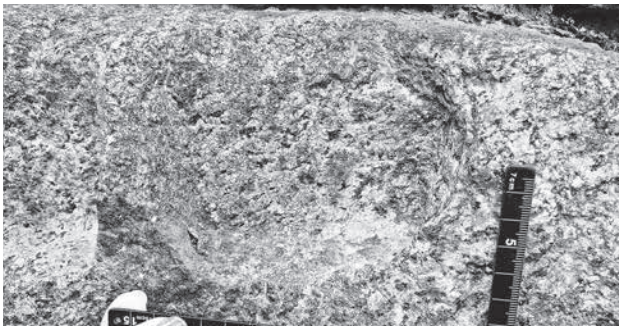


写真104　堀川石垣C 7 - 2 （矢穴10）

写真105　堀川石垣C 7 - 1 （矢穴 9 ）

写真106　堀川石垣C 7 - 1 （矢穴 9 ）

写真107　堀川石垣C 6 - 1 （矢穴 8 ）

写真108　堀川石垣C 6 - 1 （矢穴 8 ）

写真109　堀川石垣C 5 - 1 （矢穴 7 ）

写真110　堀川石垣C 5 - 1 （矢穴 7 ）

写真111　堀川石垣C 5 - 1 （矢穴 6 ）

写真112　堀川石垣C 5 - 1 （矢穴 6 ）

写真113　堀川石垣N 8 - 2 （矢穴 5 ）

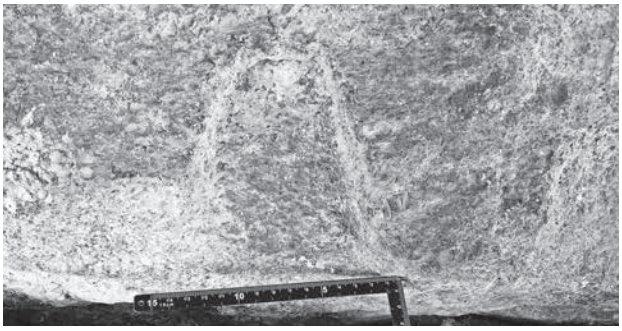


写真114　堀川石垣N 8 - 2 （矢穴 5 ）

写真115　堀川石垣N 7 - 1 （矢穴 4 ）

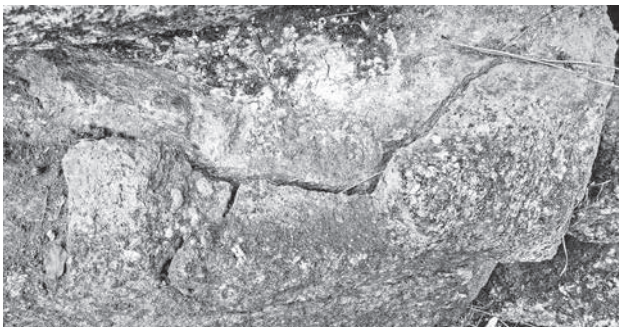


写真116　堀川石垣N 7 - 1 （矢穴 4 ）

写真117　堀川石垣N２－１（矢穴３）

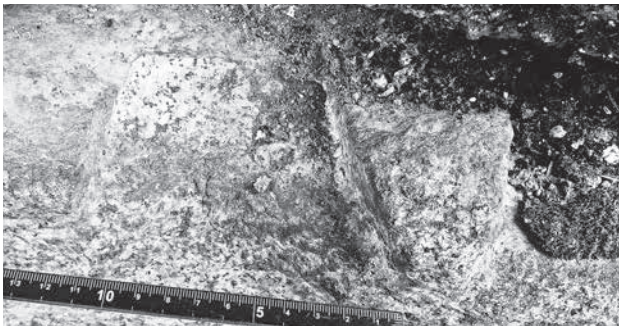


写真118　堀川石垣N２－１（矢穴３）

写真119　堀川石垣N１－１（矢穴２）

写真120　堀川石垣N１－１（矢穴２）

写真121　堀川石垣N１－１（矢穴１）

写真122　堀川石垣N１－１（矢穴１）

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとたちばなだいがく　れきしいさんちょうさほうこく
書　　名	京都橘大学 歴史遺産調査報告2017
副 書 名	山科大塚・小山石切丁場、二条城東側堀川石垣
シリーズ名	京都橘大学 歴史遺産調査報告
シリーズ番号	11
編著者名	一瀬和夫　広瀬侑紀　嵯峨根絵美　鈴木知怜　畝麻由美　山本美喜
編集機関	京都橘大学　文学部歴史遺産学科
所 在 地	〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34　TEL.075-571-1111
発行年月日	2018年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大塚・小山石切丁場（おおつか・こやまいしきりちょうば）	京都市山科区大塚・小山（きょうとしやましなくおおつか・こやま）	26100	641	34° 58′ 35″	135° 50′ 16″	2017年８月21日～24日・26日・27日、12月27日		学術調査
旧二条離宮（二条城）（きゅうにじょうりきゅう（にじょうじょう））	京都市中京区二条堀川西入る（きょうとしなかぎょうくにじょうほりかわにしいる）	26100	A453	35° 01′ 46″	135° 75′ 18″	2017年９月14日・15日・17日、12月15日		学術調査

京都橘大学 歴史遺産調査報告2017
山科大塚・小山石切丁場、二条城東側堀川石垣

発　行　京都橘大学　文学部
〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34　TEL075-571-1111
発行日　2018年３月31日
印　刷　㈲ 真　陽　社
〒600-8475　京都市下京区油小路仏光寺上ル　TEL075-351-6034

京都橘大学
KYOTO TACHIBANA UNIVERSITY